

建築人 10

2013





大阪ホンマもん

建築人

10
2013

目次

大阪ホンマもん

建築人

二井清治

Gallery 建築作品紹介

日本圧着端子製造株式会社

設計 Ateier KISHISHITA + Man*go design

施工 鹿島建設関西支店

関西ベイント潮江クラブ

設計 鹿島建設関西支店建築設計部

施工 鹿島建設関西支店

GLA近畿会館

設計 岸和郎+K.ASSOCIATES/Architects

施工 藤木工務店大阪本店

和歌山信愛中学校・高等学校

設計 竹中工務店

施工 竹中工務店

記憶の建築 松隈洋

香川県庁舎 1958年 丹下健三が蒔いた一粒の種

建築の射程 橋寺知子

芝居町道頓堀の景観復元への試み

ひろば 建築構造案内

梶田洋子

インフォメーション・事業案内

理事会報告 建築相談 編集後記

情報サービスワーキンググループ便り

山城健児

私たちの情報サービスワーキンググループは建築情報委員会に所属し、様々な媒体を通して会員の皆様、一般の皆様へ会員の活動や建築に関する情報をお届けする活動をしています。

身近な例から言えば

・大阪府建築士会のホームページの更新や最新情報の掲載。

・建築材料、設備機器メーカーリストの年毎の発行及びデータベース化。

・士会フェイスブックによるリアルタイムな情報発信・交換。

等が、継続しているワーキングです。

本年からは会員の皆様からのご要望もあり、休刊中のメールマガジンを復活し、グレードアップして十月にはお届けできる予定です。

尚、メールマガジンは先ずは以前ご登録の方々に配信することになっていきますので、この建築人をお読みになって新たにご希望される場合は建築士会までご連絡下さい。

当会も社団法人から公益法人に移行し、その価値感も変わっていく中、ワーキンググループ内では魅力ある情報サービスの在り方についての議論を重ねています。

二〇二〇年のオリンピック、パラリンピックの東京開催が決定し、私達にとって明るい話題となっていますが、最近の招致は情報戦と言っても過言ではないと聞いています。

これからも時代に合った媒体、ニーズにあった情報を選定し発信していきたいと思っています。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

日本を代表する公共建築が大きな岐路に立たされている。

大阪と奈良を隔てる生駒山脈の西側に旧枚岡市庁舎は建てられた。当時は、のどかな田畑風景が広がっており、山裾の平野部に工場が建ち並びつつあった。

設計監理は坂倉準三建築研究所で西澤文隆・東孝光が担当し、三井建設が施工を請負った。構造は鉄筋コンクリート造で、規模は地下二階・地階地上三階建て。竣工は昭和三十九年（一九六四年）で大阪事務所が担当した最初の市庁舎である。

当時の雑誌に「周辺環境の中に建築が溶け込み、建築の中にも自然が導入される。環境と建築の一体化を考えた。」とコメントしているように、本来は前面広場との関係性をもつて対立調和をなすものである。現在のアスファルト舗装されたアプローチがその関係性をスポイルしており残念だ。

今もって、多くの市民に活用されている庁舎の行末を行政に委ねるのではなく、この美しい建物をまちの誇りと捉え、まちづくりを通じて、次の世代に残して頂きたい。

建築人 10
2013

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
編集人代表	米井 寛		
編集人	荒木公樹	飯田英二	
	筑波幸一郎	中江 哲	
	橋本頼幸	牧野隆義	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		

建築人

二井清治

生い立ち・建築を目指すきっかけ
北 私は大学院修了後の二〇〇一年から二〇〇六年まで二井清治建築研究所に勤務し、二井清治さんのもとで一から実務を学ばせてもらいました。そういった中でも坂倉建築研究所^{*1}（以下坂倉事務所）以前のお話というのは聞くことはありませんでした。まずは二井さんが建築を志すきっかけについて生い立ちを踏まえて聞かせていただけないでしょうか。

二井 私は滋賀県の日野町の生まれです。学生時代には器械体操をしていて、国体やインターハイにも出ました。日野は江州（近江）商人の町で、私たちの年代は大学に進学する人間も非常に少なく、私は高校を出てすぐに商社へ入りました。しかし商売は残したお金の量で人の価値が決まるところがあり、それは嫌だと、一年で辞めました。

数学と絵を描くことが好きだったので、デザイナーになりたいという希望がありました。叔父に相談したら、デザイナーで国家資格があるのは、建築だけだ、デザインをやりたいなら建築がいい、と言われ、建築に進もうと決めました。

坂倉建築研究所入所への経緯

二井 その当時はまだ坂倉事務所につい

ては知りませんでした。ひとまず建築業界へ入ろうということで小さな工務店を紹介してもらい、そこで仕事をしながら、建築の世界についていろいろ聞いていくうちに、設計事務所でもいろんなレベルがあることを知りました。大阪で一番はどこかと聞くと、坂倉事務所というところだということで、じゃあそこへ行こうと。北 今と違って情報が全くない中、人とのつながりを通して、そこにたどり着いたんですね。

二井 そうです。しかしそこは、大学院まで行って推薦状を書いてもらっても、十人に一人しか入所できない。とりあえず、製図を勉強するために夜間の専門学校へ行きました。フリーになってから、COM計画研究所の高田昇（すすむ）さん^{*2}に出会いました。彼からは、ものの本質を見極めることを勉強させてもらいました。坂倉事務所に行きたいという志を伝えて、仕事をしていたんです。北 切羽詰まった状況だったと思います。が、そこでどのように考えたのでしょうか？

二井 坂倉事務所にいた知り合いに、「今来てくれと言われれば行くから、いつでも声を掛けてくれ」と伝えていました。少しばかりは図面を描けたので、「ちよっ

とだけ手伝ってほしい」というチャンスに、自分の仕事を全部放って行きました。中澤 「今日だけ来てくれ」という話から、それが一週間になり、やがてはずっとということになったんですね。

二井 ええ、一生懸命頑張っている人が隣にいて、仕事に間に合えば、みんな忙しいから、「そっちの手が空いたら、こっちを手伝ってくれ」と、必ずそうなるんですよ。

西澤文隆から学んだ住宅

北 「高野街道の家」（一九七八年）は坂倉事務所時代に西澤文隆さんの下で担当され、二井さんが独立してからも増築を手がけられています。そこから学んだことも多かったのではないのでしょうか？

二井 そうですね。西澤さんからは建築と庭について丁寧に教えてもらいました。三十三歳くらいのときです。西澤さんは設計の実務と同時にライフワークとして実測もされていたから、「ここは〇〇の書院みたいな方がいいですね」と言います。私自身はそれを知らないから、休み毎に測りに行ったものです。一件の住宅設計を終えるまでに、京都をはじめいろいろな所を見に行きました。荒木 それが貴重な勉強になったんで

建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」。人のもつ魅力は、職域を越えても理解しあえると考えます。創作の源泉や姿勢、人生哲学、ライフスタイルなどを垣間見ることで、共感できる気づきを得ることを期待しています。

第七回目の建築人は、建築家・二井清治さん。住宅を基本として質の高い福祉・医療施設を数多く手がけられています。また環境建築にも積極的に取り組んでおられます。生い立ちや建築にとどまらない活動を通し、ご自身の考える建築についてうかがいました。

にいせいじ

1946年滋賀県生まれ

1974年坂倉建築研究所入所

西澤文隆に師事

1987年二井清治建築研究所設立

主な受賞

1993年第39回大阪建築コンクール

知事賞・正面の家

1996年第20回hiroba作品賞・

高野街道の家

2001年空間デザイン・コンペティション

金賞・春風館

2005年SBO5Tokyo記念サステ

ナブル建築賞・里の風

第25回大阪都市景観建築賞

大阪府知事賞・里の風

2006年JIA環境建築賞入賞・津山の家

医療福祉建築賞・里の風

2010年第2回建築人賞奨励賞・

ぶれいすBe

すね。

二井 そうです。庭のつくり方もいろいろ教えてもらい、すごく面白かった。西澤さんは「緑魔」と言われるくらい、木のことをよく知っていました。植え方や樹木の種類など全部このときに学びましたね。

北 庭は図面を見ても、なかなか立体的なイメージができないのですが、作法というものがあるのでしょうか？

二井 「高野街道の家」では、確か四人がそれぞれ庭を見る視点に座って、順番に植えていきましたね。庭の外周に木を植えるときは、視点を決めて借景になる建物の形をまず消していく。そしたら空間がフワッと一塊になってくる。それから真中に花の咲く木などを植えるんです。

中澤 増築部分は独立後に手がけられたとのことですが、担当者であった二井先生に直接お願いしたいという話だったのでしょうか。

二井 そうです。坂倉事務所には事前に了解を得て依頼を受けました。坂倉事務所時代に手がけたときは息子さんが中学生だったと思います。その息子さんが社会人になって、自分の家を庭先に建てるというので、再び設計することになりま



^{*1} 坂倉建築研究所：1940年坂倉準三（1901-1969）により創立。現大阪事務所は1948年に開設。西澤文隆が支所長であった。西澤文隆（1915-1986）：建築家。1940年東京帝国大学工学部建築学科卒業。同年坂倉準三建築研究所に入所。1番目の所員であり、坂倉準三の死後、同事務所代表として活躍。コートハウスなど庭と建築を共存させる手法が有名。

上段：インタビューの様子
中段：坂倉事務所時代
下段：高野街道の家（1994年）
撮影
上段：田籠哲也
中段：二井清治提供
下段：松村芳治

撮影：田籠哲也



*2 高田昇：1943 年大阪生まれ。1969 年神戸大学工学部建築学科卒業。1970 年 COM 計画研究所を設立。まちづくりや住民参加型のプロジェクトを数多く手がけるとともに、立命館大学政策科学部教授として後進を育成。

上段：正面の家（1991 年）
中段：津山の家（1990 年）
下段：M 邸
撮影
絹巻豊

した。かれこれもう三十五年くらいの付き合いになります。

初期の住宅について

北「高野街道の家」が坂倉事務所から独立して最初の仕事だったのですか？

二井 いえ、独立して最初の仕事はもう少し大きな「正面の家」（一九九一年）と「津山の家」（一九九〇年）です。

北「正面の家」の外壁は村野藤吾さん設計の「箱根プリンスホテル」（一九七八年）を参考にしたと聞きましたが？

二井 そうです。中はしつくい塗で、外壁はインド砂岩張りです。インド砂岩はもともと大きな平板で、工事にあたっては全て原寸図を描いて、その形をベニヤ板に描いて割っているんです。

荒木 全て描いているんですね。

二井 描いてみると分かるんですが、同じ大きさでは駄目で、場所によって変えています。壁面が大きければ、一枚をちよつと大振りにしないと、せこせこになるんですね。屋根にはむくりがついています。

荒木 こんなおらかな屋根をもつ住まいも最近では珍しくなりましたね。

二井 でも、もうこんな屋根を架けるのはやめようと思ったんです。お金が掛か

りすぎますから。

北 大きく屋根が架かった「正面の家」と、一方でコンクリート打ち放しの「津山の家」を同時にやっていたんですね。クライアントの要望があつてのことだと思いますが、やはり葛藤があつたんですか。

二井 施主の意向を汲み取って行くと自然と二軒は違ったデザインになってしまったから、特に葛藤はありませんでした。

「正面の家」は手造りの建築ですが、「津山の家」は内外ともコンクリート打ち放しのシンプルな建築です。窓はハイサイドと地窓だけで、朝日が地窓に反射し、昼以降はハイサイドから差してくる。この施主とも長い付き合いで、敷地の奥に増築をしています。

独創性と合理性の間で

森本 独立後は、自分の作家的な方向性について模索すると思うのですが、それはスムーズに流れていったのか、やはり何年か模索しながら見つけられたのか、その辺りを少しお聞きできればと思います。

二井 実は独立後初めて設計し、実現できていない建築（下段模型写真）があります。小さい建築ですが、ボイドとスパ

イラルの階段と小さい部屋があつて。外形も放熱のフィンみたいなものが付いていました。そのときは独創的なものをつくりたいという気持ちが強くなりすぎた。でも、あまりにもお金が掛かりすぎて結局建ちませんでした。このとき設計料はもらつたんですが、建たなくて申し訳ないと思ひました。やはり坂倉事務所と延々と続けてきたように、合理的で必要なものを求める、という考え方に改めないといけないと思ひました。独創性みたいなものは、ちよつとした空間のしつらえ方とか、余白の空間で表現しないとけないと。

透明感のある建築

河野 今日うかがつた事務所を含め、いろいろな作品で低い天井が見受けられますが、どのような思いでお使いになつているんでしょうか。

二井 日本建築というのは本来水平に広がる建築だと思ひます。水平に開口部をつくつて、そこへ力がスツと抜けていくようにしようとしたら、やはり天井は低い方がいいですね。日本建築を見れば、床を上げて、天井を下げるというのはいくような気がします。だから「津山の家・増築」（一九九八年）も床を上げています。

空間の抜けもあるけれども、透明感がある建築がいい、と常に考えています。

伊勢神宮に行つて、何がいいのかなと思うと、透明感があるというのでしょうか。それは視覚的に抜けるというのか、気配に透明感があるのか、もうひとつよく分かりませんが。

北 無駄がない、というのは違いますか。

二井 いや、凜とした空間に背骨みたいなものがあるというのでしょうか。

広瀬 私は「水平性」とか「力の流れ」という言葉を聞いて、伊勢神宮にしても平入りや妻入りという、はっきりした形式があることを感じました。

二井 空気の流れ方みたいなものがあると思ひます。しかしその流れだけが、透明性を表現しているのではなく、もつと細かく、どれくらい光を反射する素材なのかというのもあると思ひます。最近の白い建築は、もたつとした空気が漂っていてあまり好きになれない。この間見たスタジオ・ムンバイ展では空気が奥へスツと吸い込まれていく闇みみたいな部分がある。そういうところに透明性があり、緊張感が出ている。非常に日本建築によく似た感じがしました。

中澤 荒谷省午さんとの対談*3で、小

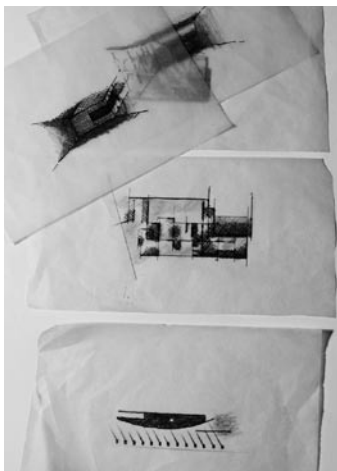
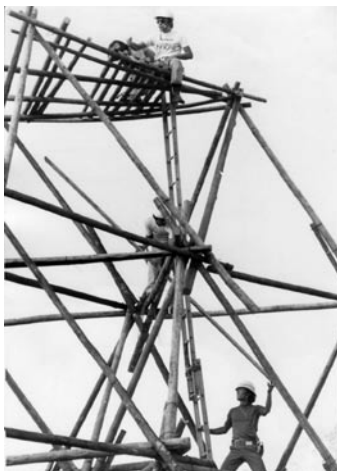
坂倉事務所時代の 1979 年、西澤さんの教えを受けて設計した。住宅の設計も、木造建築も初めての体験で、西澤さんからはこの家の設計を通して様々なことを学んだ。15 年後、庭先に息子の家を作ることとなり、庭に潜む茶室のような家を設計した。その後子どもの成長に合わせ、庭に面した部屋を増築する。また、この息子が地域の子どもに剣道を教える道場も設計（春風館）し、庭を中心とした一家の歴史と共に現在も付き合いが続いている。

高野街道の家（坂倉建築研究所 大阪事務所）

紀州街道の家（二井清治）

阪神大震災（1995 年）の十日後、高野街道の家の施主の紹介で、家を建替えたいという依頼を受ける。打ち合わせを始めるが、敷地を横断する水路の話し合いがつかず一時中断。計画が再開したのは四年後だった。雑木林の庭が好きな 80 歳のお母さんと息子夫婦の希望により、庭と一体となった庵のような家を設計した。住宅が完成して今年で 13 年、現在同じ街道沿いに、この家を見たという施主の住宅と建設中である。

撮影：松村芳治（上下とも）



*3空間の質を決める素材と寸法のルール「住宅建築 2008 年 2 月号」建築資料研究社

上段：津山の家、増築（1998 年）
中段：THE PLAY「雷」
下段：エスキス
撮影
上段：松村芳治
中段：二井清治提供
下段：田籠哲也

い家の場合は床を上げることで開放感が生まれる、とあったんですが、それも今の話と同じような話なんでしょうか。私はそれを読んだときは床を上げたほうが庭との関係性が離れてしまうので、一体的にするならば下げた方がよいのではと思ったのです。

二井 本当に一体にしようとしたら、下げたほうがいいですね。しかし、床を上げると視点が高くなりより開放感が強くなると思います。見る庭に対して、日本建築の床は上がっていますね。

一から考えて作っていく

北 作品を見ていくと構造も作品毎に違うし、同時期でも全く違う作り方があるのですが、それは今までの経験があるからできる、というものでしょうか。それとも、自分にとって新しいことを試みている、ということなのでしょうか。

二井 私は、社会、環境、そこに住む人の個性、この三つの要素で建築がある、と思っています。この中で社会がどう変わるかを予測することはとても難しいので、建築を固定化するのは危険だと思います。

荒木 こうでないといけない、というものはないということですね。

二井 常に一からニュートラルになって考えます。建築というのは、今目的で社会に合っていないと駄目だと思います。いかにその建築が建ち続ける時間に見合った新しいものであり続けられるかが私の大きなテーマです。

スパイラルな世界に身を置くーザ・プレイ

二井 社会を正確に見ることに關して、建築の視点だけでものを見続けることに危惧がありました。建築を離れ、モノをつくらないアートをしようということとで、坂倉事務所に入ってから「ザ・プレイ」（一四ページ参照）という美術集団での活動を続けています。最近では、フランスの公的なギャラリーから招待され、「セーヌ現代美術の流れ」というテーマでイカダをつくってセーヌ川を流れるということをしました。

建築と違う非日常のアートの世界があって、その間をスパイラル状に行ったり来たりすることにより、社会と自分自身を客観的に見ることができます。森本 入り込まずに俯瞰するような位置を確保することが大切だということでしょうか。

二井 建築も続けていくと慣例的になっ

てくるんですね。それが良くないと思います。

執念を持って考え続ける

二井 これは、普段持ち歩いて合間を見つけては描いているエスキスです。電車の中や酒を飲みに行っても、絶えず考えています。いつでも持ち運べるように手のひらサイズの大きさに描いています。計画するときは手のひらで見える大きさで計画を練ることがとても大事だと考えています。

北 このスケッチは何分の一のスケールなのでしょうか。

二井 スケールは全く関係ありません。バランスをみることを主眼にしています。これを見て、パツと思いつくことがあるのです。

考え続けるというのがすごく大事です。私は、建築ツアーのときに、トルコで結婚のお祝いをしてもらいました。その際に西澤さんが色紙に書いてくれたのは、「執拗に心をこめて 屈折に屈折を重ねたデザインを」という言葉でした。私にとっては、そういう、モノを考え続けている西澤さんを見て育ったというのが一番大きい。つくり込む執念みたいなものがすごい。

2001 年に実施した「知的障害者のバリアフリー支援方策」の調査研究で自閉症に関して教えを受けた方から、通所施設の設計の依頼があり、2005 年に「ジョブサイトよど」が竣工。その後、高槻市のプロポーザルコンペに法人と共に参加し、運営とプラン双方に評価を得、大規模木造建築の「ぶれいす Be」が完成した（2009 年）。自閉症に対する高い専門性を持つこの法人とは、重度の知的障害の方を対象にしたケアホームも実現、さらに次の計画が進行中である。



ぶれいす Be



子どもの施設では、障害児通所施設に始まり、保育所、院内保育所、児童養護施設、乳児院などを設計している。この保育所は、デッキと大屋根で構成された遊びを誘発するおらかな建築である。さまざまな用途の施設を設計してきたが、成長期の重要な時間を過ごす場として、感性を豊かにする空間が重要であることに変わりはない。それぞれの専門性を持ちつつ、子どものための豊かな生活空間の実現を目指している。

荒木 建築は、その本質を理解するのに時間が掛かる。そこが面白いところでもあり、非常に難しいところでもあると思います。

二井 結局、社会をどうとらえるかという差ですね。大きく差が出るのは四年五年建ち続けるとして、その時間をどう読むかだと思います。

私は、坂倉事務所時代に続けてきたように合理的に建築をつくるのですが、結果的に違いがあるとすれば一見無駄な部分があることもかもしれません。社会が流れていく時間の中で、どうしても読み切れない部分というものがあられるわけです。でも、建築は建ち続けるわけですから、今求められている機能だけを組み立ててつくってしまうというのは、大きな問題だと思います。ここ（桜塚の家）の一階をギャラリーとしているように、今時点ではこういった機能は要らないけれども、将来きつとこの空間が必要になるだろうと考えています。社会が動いたときにそこがクッションになって、この建築が建ち続けることができるのだらうと思います。そういったものが大事です。

建築の社会性

森本 福祉施設等も多く手がけおられて



いますが、施設をつくるときの考え方と、住宅をつくるときの考え方の違いをお聞かせいただけないでしょうか。

二井 施設は住宅よりボリュームが大きく、環境に対する影響力が大きいことから、全体の空間構成や街に対する構え方は重要です。内部構成については、いかに住宅に近い視点でつくっていくかということが大事だと思います。今までやってきたものを組合せ慣例的に作るのではなく、その都度一から考えています。森本 しかし、同じ形を踏襲せずにもう一度考え直してしていくというのを、住宅でも施設でもやるというのは結構大変なことだと思いますが。

二井 そうですね。でも、同時に住宅も施設もやっているからできるということもあります。建築の中でもスパイラル状になって、住宅でも施設でも常に同じレベルで考えることができます。

仕事のつながり

広瀬 「里の風」では多くの賞を取られています。施主とのつながりや受賞したことで、次の仕事につながっていくことがあれば、お聞かせください。

二井 賞をもらったからと言って、自然と次の仕事につながっていくことはな

都市にも大事なことです。

インタビュを終えて

今回のインタビューでは、事務所のある「コーポラティブハウス・デネブ」（二九八三年）*5にうかがい、居住者として参加したプロジェクトの経緯、自ら設計した住戸部分のコンセプト、その後の事務所としての改装についてお聞きし、その空間を体験した。その後、場所を自邸である「桜塚の家」一階ギャラリーに移して話を伺った。

インタビューでは私達の質問や疑問に対して、模型、写真、スケッチを交えて、いきいきと、そしてわかりやすく伝えようという姿が印象的であった。それは和風建築や施設建築という決まった型を説明するというのではなく、二井清治というフィルターを通して重要なことを伝える、というものであった。また、それは建築の社会性という文脈の中で、常に新しいものを作り続けたい、という思いが感じられるものであった。

そうやってインタビューが進むにつれて、桜塚の家での列柱の空間、屋根の架け方、壁の作り方などが、いままでの経験や考えが凝縮されたものであることがはっきり感じられた。そして建築が建っ

なありませんでした。

どのように施設の設計に取り組んだかを少しお話ししますと、独立後、高齢者の居住環境について勉強を始め、大阪府老人センターの住宅専門相談員を四年間勤めました。そこから高齢者施設をいくつか設計し、その関係で、高齢者と障害児の合築施設の依頼がきました。障害の施設は初めてでしたので、福祉専門職の人たちへのヒアリングを重ね、障害のある子どもが安全に楽しく過ごせるような工夫しました。

そのときお世話になった人から、障害者施設を計画している保護者を紹介され、施設の構想から法人設立までお手伝いしました。また、高齢者施設に比べて遅れていた児童養護施設をなんとかしたいと、大阪府社会福祉協議会に働きかけ、「居住環境の望ましいあり方」について施設関係者と共に調査し、それがきっかけとなって、大阪で初めてユニット型児童養護施設を設計しました。調査から施設の完成まで四年の歳月を経ています。やはり、いろいろな勉強して仕掛けていく以外に方法はないですね。

自邸・桜塚の家について

広瀬 ご自邸である「桜塚の家」は

た後にも、社会的な場所として進化をつづけているという点で、「桜塚の家」は自らを表現しているようでもあった。

（二〇〇三年）でのインタビューということで、どんな空間なんだろうとワクワクしていました。思った以上に広さを感じたというか、開放感があります。

荒木 私はこの住まいの持つおもしろさがよいと思いました。階毎に緑の見え方が違うという意味では、西澤さんが手がけられた「上坂邸」*4を思い起こしました。

二井 私はインドにあるル・コルビュジェの「ジョーダン邸」（一九五六年）が頭の中になりました。家の中にスロープがあり体積が大きい割には少ししか部屋がない。私は、あの家を見て感激して、これだなと思っていました。

森本 私は学生のとき、「ジョーダン邸」の模型をつくったことがあります。確かにこのフレイム、屋外のテラスがあって、そういうイメージがあります。

二井 このギャラリーの光の入り方のイメージはインドのグジャラート州の階段井戸です。底に井戸があって、光が上からバースと入ってくる。唯一迷ったのは、吹き抜け部分に梁が無いほうがきれいなものか、適度に梁があつて、光が遮られながら落ちてくるのがいいのか。

中澤 梁があるから高さを感じられるというのがありますね。

*4 上坂邸：坂倉建築研究所大阪事務所設計（1968年）
*5 コーポラティブハウス・デネブ 大阪府住宅供給公社が地域環境整備の一環として官民協力型で行ったコーポラティブ住宅。設計：ヘキサ、コーディネーター：COM計画研究所、1983年竣工。「住宅建築 2013年8月号」建築資料研究社

上段：和泉乳児院（2012年）
中段：ジョーダン邸（1956年）
下段：階段井戸
撮影
上段：松村芳治
中段・下段：二井清治

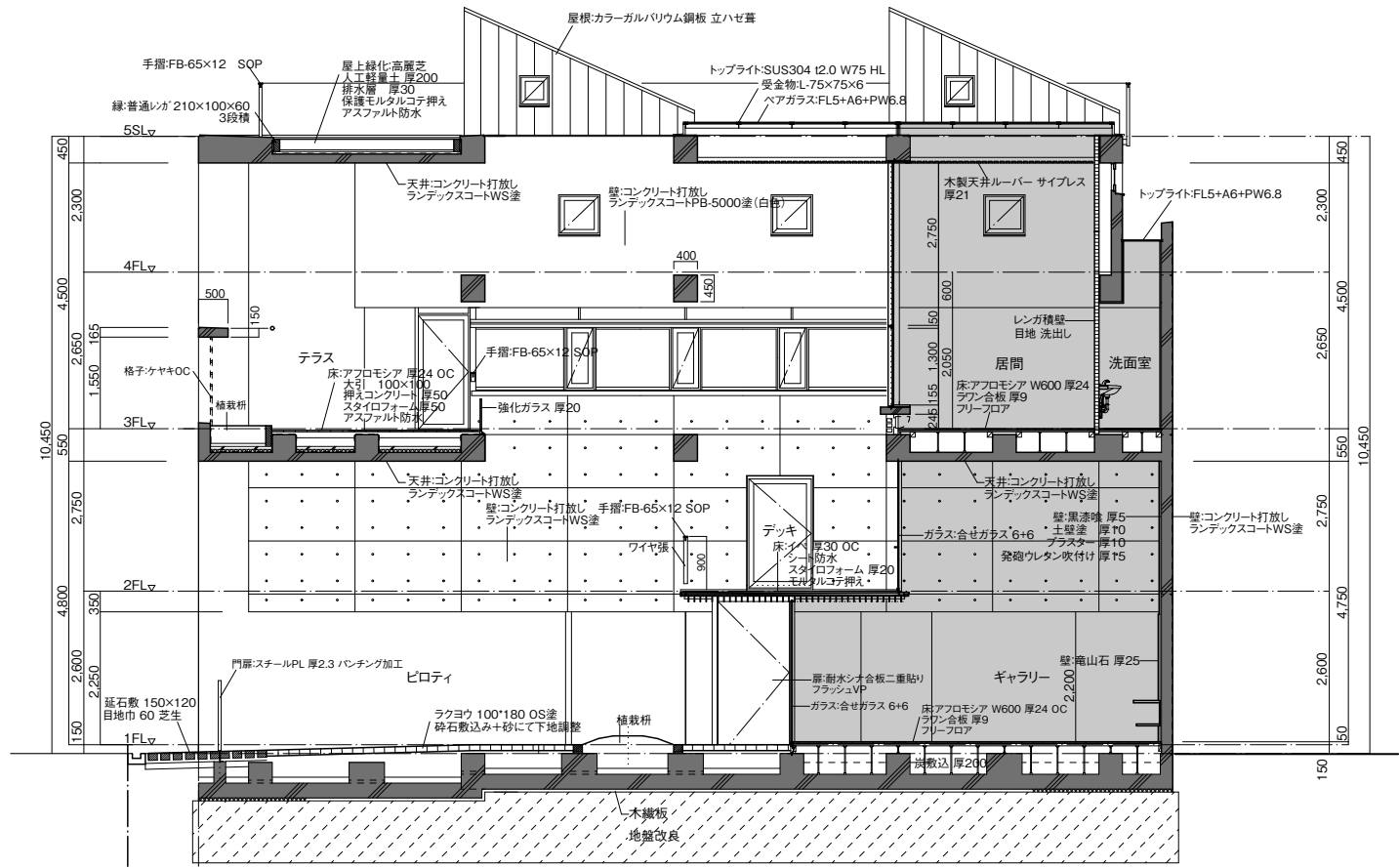
荒木 四〇坪の敷地とは思えないくらいに、奥行きが感じられる住まいですね。二井 コンクリートの列柱を建てることで、凛とした美しさと空間の奥深さを表現しています。

それから、一階はできるだけ街に対してオープンにしようと考え、ギャラリーとしました。豊中市では、「創造界隈クリエイト」という催しがあり、近々、ここでリユートという古典楽器の演奏会が開催されます。

荒木 市役所がまちづくりの一環として、ご自宅を使わせてもらえないか、ということになったのですね。

二井 そういう家になったらいいなと考えていましたから、ちよいどいいタイミングだと思いました。住まいとしては必要のない空間であっても、パーティーをしたり、ギャラリーとして使ったり、音楽会をしたりと使い方をいろいろイメージしていると、本当にそういった使い方が具体的になってきます。そのような場をつくれば、場がそういった出来事を引き出してくるということもあると思います。要求されている機能だけではなくて、何かそういう場をつくって、新しいものへ向かっていくという建築が大事だなと思います。それは建築だけではなくて、

聞き手
北 聖志 大阪府生まれ
1976年 神戸大学大学院(博士課程前期)修了
2001年 二井清治建築研究所
2007年 THINK—級建築士事務所設立
近畿大学非常勤講師
河野 学 大阪府生まれ
1979年 大阪大学大学院(博士後期課程)修了
2008年 大阪大学大学院特任研究員
2009年 大阪府立工業高等専門学校講師
2013年 京都市住宅供給公社
中澤 博史 大阪府生まれ
1969年 大阪府生まれ
1992年 近畿大学理工学部建築学科卒
1992年 株式会社大建設計
1998年 中澤建築設計事務所設立
森本 雅史 三重県生まれ
1974年 京都工芸繊維大学大学院(博士課程前期)修了
1998年 株式会社東畑建築事務所
2009年 森本雅史建築事務所設立
近畿大学工業高等専門学校非常勤講師
奥河 歩美 兵庫県生まれ
1976年 神戸大学大学院(博士課程前期)修了
2001年 共同設計株式会社
2007年 O+O architects
2010年 空間計画株式会社
広瀬 和也 兵庫県生まれ
1983年 兵庫県生まれ
2009年 大阪市立大学大学院(前期博士課程)修了
2009年 株式会社東畑建築事務所
本特集責任編集人
荒木 公樹 大阪府生まれ
1971年 神戸大学工学部建築学科卒
1995年 建築環境研究所
2003年 空間計画設立



「桜塚の家」南北方向断面図

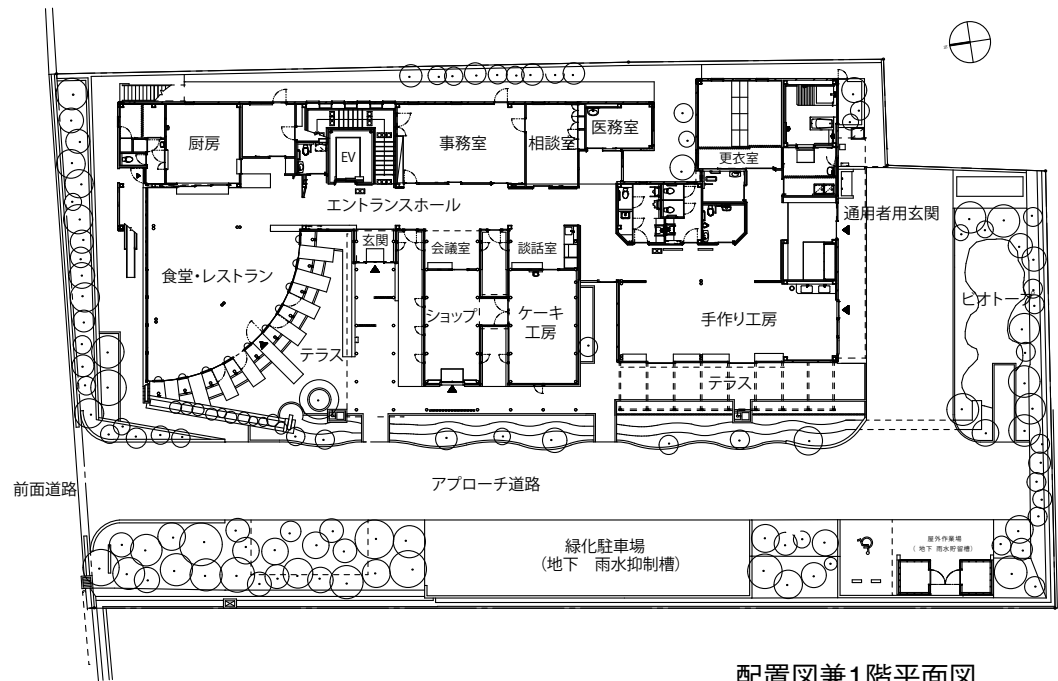
二井清治

この施設は、障害者自立支援法施行以前に建てられた、当時は珍しい身体障害者と知的障害者を対象とした通所授産施設である。この施設の設計にあたり、自らも障害を持った施主との熱のこもった打合せから、障害があっても自立した生活を送り、地域の一員として役割と生きがいを見出せる地域コミュニティの拠点を目指すとともに、自然と一体となり自然の恵みを感じられる建築をつくることを目的とした。

地域二体となった開かれた施設とするため、敷地内に引き込んだアプローチ道路に面して建物を開放し、施設の独立性を保ちつつ閉塞感のない施設イメージを演出した。アプローチ道路に向かって開かれたレストラン、ケーキショップ、手作り工房の三つのエリアが、庭に張り出したテラスや路地庭などの屋外空間と二体となりつつ、それぞれ異なった表情を見せることで、にぎわいや親しみやすさを表わしている。

身体障害・知的障害に配慮した、わかりやすくストレスをため込まない空間づくりを目指した。廊下の一部をアルコブとした会議室や談話室、小さな庭に面した休憩コーナーなど、異なる雰囲気の間所を設け、施設内に取り込んだ路地庭を通して視覚的につながる空間構成としている。

医療福祉建築賞 2006
SB05Tokyo 記念サステナブル建築賞
第四回エコビルド賞
第五回環境・設備デザイン賞
大阪都市景観建築賞大阪府知事賞
大阪・心ふれあうまちづくり賞
大阪府知事賞



撮影：松村芳治（上下とも）

一九六七年に発足した「THE PLAY」には、坂倉事務所入所後の一九七五年から参加し、建築と並行して活動を続け、現在に至っている。

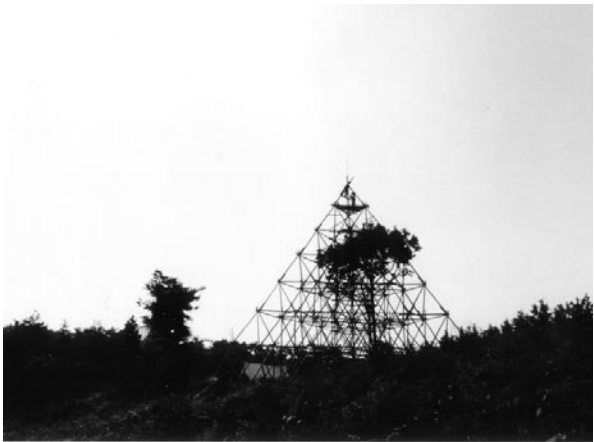
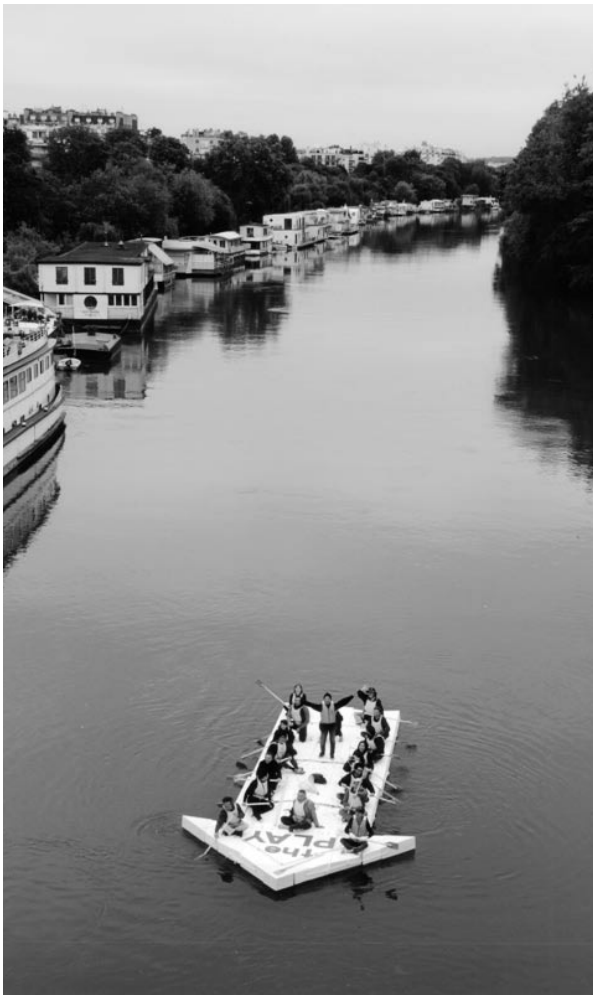
昨年（二〇一二年）六月にはパリ郊外のセーヌ川を発泡スチロールの筏で下る「ラ・セーヌ 現代美術の流れ」を敢行した。この行為は、一九六九年京都・宇治川から大阪・中之島へ下ったのが始まりで、四〇年を経て二〇一一年六月に「ナカノシマ 現代美術の流れ」として大阪・堂島川を流れた。

その時に国立国際美術館で開催された展覧会でプレイの活動記録が紹介され、それを見たフランス人のキュレーターを

通じ、公的な芸術センター「プラトール」により招待された。

発泡スチロールの筏は、パリで材料を調達し、プラトールのメンバーと共に製作。早朝パリ郊外のプトル橋を出航し、ブローニュの森を右手に見ながら約三キロメートルを流れ、一時間半後にジャット島東岸に到着した。

このような日常と非日常の中でスパイラルに思考することにより、自分自身を客観的に捉えることができている。



雷 1 ～ 10 1977 ～ 1986.6.7.8 月／京都東南部 鷲峰山
山頂に丸太で一辺 20m の塔を組み、落雷を待った。



CANOE 1974.12.8、1975.7.19 ～ 8.10 ／滋賀県伊吹山→琵琶湖
樹齢 100 年の木を切りカヌーを作り入水する。



Wandering in the wind. 1976.8.10 ～ 8.15 ／北海道 サロベツ原野
5 日間 風に向かって歩きつづけた。



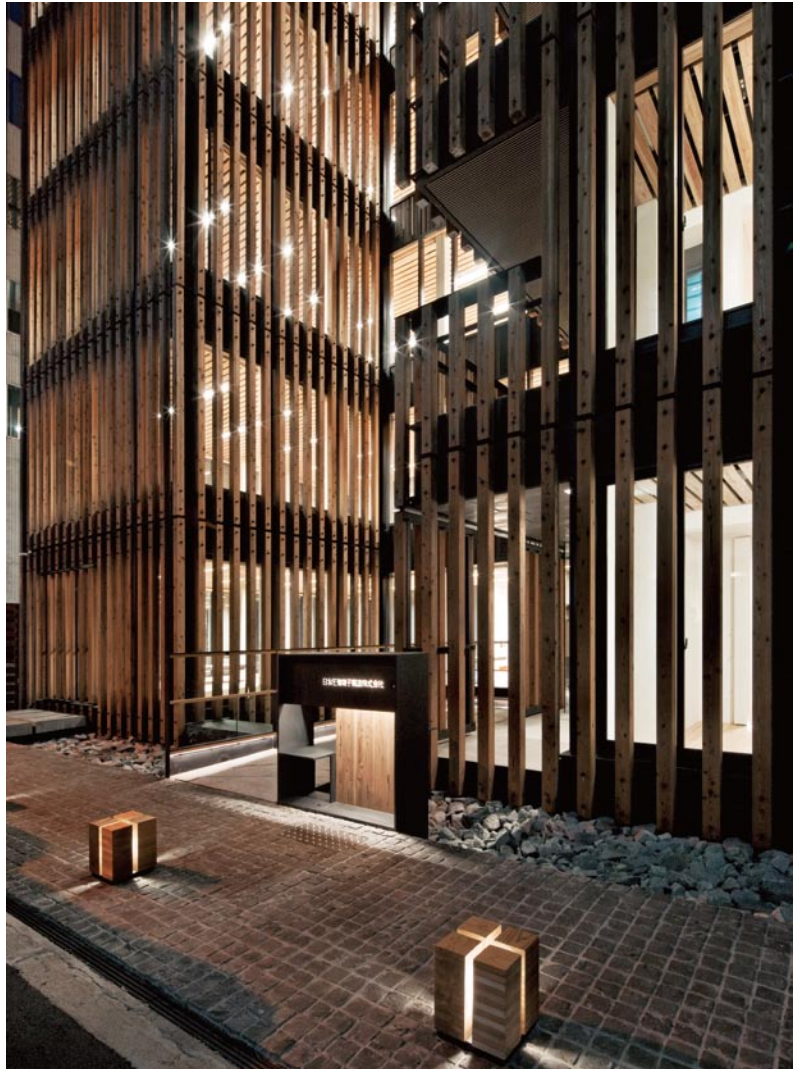
MADO：或いは返信＝埒外のものを受けよ 1980.2.3 ～ 2.30 ／兵庫県立近代美術館
美術館東壁の窓を展示室に移動し、これを MADO とした。

二井清治 作品年譜

[住宅建築]			
1990	津山の家【津山】	1998	老人保健施設 ヴァンベール【東大阪】
1991	正面の家【豊中】		HIROBA1999.3
	HIROBA1992.1	1999	喜馬病院改修【東大阪】
	住居の近未来像		府営住宅共同施設 下新庄さくら園【大阪】
	建築文化 1992.10		老人保健施設 錦秀苑【大阪】
	カーサ多田・集合住宅【豊中】	2000	HIROBA2000.9
1994	高野街道の家【堺】		千原眼科【宇治】
	HIROBA1995.3		医院建築 2001.7
1995	六甲の家【神戸】	2001	障害児通所施設 こどもデイクアいずみ【貝塚】
	HIROBA1996.7		建築設計資料 2003.4
1996	地上 24 メートルのコートハウス【大阪】		老人デイサービスセンターネクストリブリー【貝塚】
	西宮の家【西宮】		建築設計資料 2003.4
	N 邸【門真】	2002	障害者通所授産施設 ヤンググリーン【東大阪】
1997	大阪府住宅供給公社桃山台-D 団地【堺】		建築設計資料 2003.4
	I 邸【宇治】		阪和第二住吉病院【大阪】
1998	津山の家増築【津山】	2004	Y 医院増改築【堺】
	住宅建築 2008.2 住宅特集 2002.9		障害者通所授産施設 里の風【八尾】
	環境建築ガイドブック 2007.11		建築設計資料 2005.3
2000	紀州街道の家【忠岡】		医療福祉建築 2006.1
	住宅建築 2008.2 HIROBA2002.8		建築環境ガイドブック 2007.11
2002	K 邸【東大阪】	2005	グループホーム 清泉【堺】
2003	高野街道の家増築		サンビルディング（診療所ビル）【神戸】
	住宅建築 2008.2		三浦内科クリニック【神戸】
	桜塚の家【豊中】		障害者通所授産施設 ジョブサイトよど【大阪】
	住宅建築 2008.2 住宅特集 2003.9		建築設計資料 2006.9
2005	神戸の家【神戸】	2007	千原眼科増築【宇治】
	Y 邸【池田】		松の実園保育所【堺】
2008	O 邸増改築		子ども家庭支援センター 清心寮【堺】
	N 邸増改築	2008	住吉病院食堂棟【大阪】
2009	忠岡の家増改築【忠岡】		児童養護施設 あおぞら
	建築人 2012.12		医療福祉建築 2009.4
2013	M 邸【大阪】	2009	なのはな保育所【堺】
			MEDICALQOL2009.11
[福祉・医療建築]			高槻地域生活総合支援センター ふれいず Be【高槻】
1993	但馬長寿の郷【八鹿】		医療福祉建築 2011.4 建築人 2009.6
1995	山崎眼科【加古川】		秋の社日中活動支援センター ふれっと【高槻】
1996	老人保健施設 ベルフラワー【東大阪】	2010	障害福祉サービス事業所 アースグリーン【東大阪】
1997	あしはら整形外科【大津】		大阪府金剛コロニーしいのき寮 改修【富田林】
	医院建築 2001.7 HIROBA1998.1		大阪府立修徳学園 寮舎基本計画【柏原】



津山の家増築(1998年)



圧着端子やコネクター等、接続システム製品を製造販売するグローバル企業の国内拠点となる新社屋である。各階を4つのエリアに分割し、隣り合うエリアを半階ずつスキップさせることで螺旋状に構成された空間は、一般的には各階が層ごとに切れてしまうオフィス空間を上下階共に視覚的に繋いでいく。螺旋をふたつ重ねることで二重螺旋構造が形成され、限られた空間の中で必要面積を確保しつつ、均一でない多様な場が出現する。また、内外装材の素材感や色調の変化を通して、あるいは、20年後に想定している木格子の取替えを通して、動的な建築の在り方を表現することを目的のひとつとしている。（岸下真理、岸下和代、都倉泰信、稲垣誠）

建 築 主：日本圧着端子製造株式会社
所 在 地：大阪市中央区
用 途：事務所
竣 工：2013.6
構造規模：S造・一部SRC造、RC造
地下2階地上8階建
敷地面積：1,226.16㎡
建築面積：939.01㎡
延床面積：8,245.23㎡
写 真：絹巻 豊



用途にあわせた3種類の寮室と、企業研修機能とを併せ持つ施設である。
■長持ちさせるための配慮：将来にわたって機能、用途が更新しやすいよう構成。各寮室は、将来変更を見据えた共通の躯体形状としている。
■社員寮ならでの交流スペース：エントランスホールや階段横に吹抜けラウンジを設けた。また、各階中央にも小さなラウンジを設けるなどスケールに応じた交流スペースを創出するよう心がけた。
■地域との調和：交差点に面する街角側に、セミオープンな庭を配し、眺めの良い食堂と、街づくりのコンセプト（あまがさき緑遊新都市）にふさわしい緑あふれる街角の表情を創っている。（岡 広）

建築主：関西ペイント
所在地：兵庫県尼崎市
用途：寮（105室）
研修施設
竣工：2013.2
構造規模：RC造
地上4階建
敷地面積：2,931.27㎡
建築面積：1,732.27㎡
延床面積：5,286.44㎡
写真：母倉知樹



和歌山市の市街地にある、フランスの修道女会を母体とした女子校の建替え計画。西日の遮蔽とプライバシー制御のため、外周を広い廊下とする片廊下形式とし、ポツ窓として開口を絞った。さらに、壁柱の幅と配置を上下でずらすことにより、変化のある千鳥状の開口配置を実現し、内部にリズムミカルな光を取り込む個性的なファサードを創出した。また、自然の変化を体感するバルコニー、テラス、異なる光の変化を見せる4つの階段、中庭、回廊に加え、日常の中でカトリックの精神を感じられるマリア像と水盤、ステンドグラスにより、生徒の知性と感性を豊かに育む「多様な学びの場」の創造に取り組んだ。

建 築 主：学校法人和歌山信愛女学院
所 在 地：和歌山県和歌山市
用 途：学校
竣 工：2013.2
構造規模：RC造(一部S造、SRC造)
地上5階建
敷地面積：7,567㎡
建築面積：2,975㎡
延床面積：12,485㎡
写 真：古川泰造



大阪府吹田市、交通量の多い環状道路沿いに建つ、宗教施設の計画である。安定した室内環境を確保しつつ、環状道路を走る車からも容易に識別可能な建物とするために、外部側はプロフィリットガラス、室内側には透明ガラスを用いたダブルスキン構造を採用している。半透明のガラスファサードは、昼間は内部の人の動きを緩やかに映し出し、夜になると大きな照明器具のように都市に浮かび上がる。また、内部機能としては集会機能が主であり、日常的に人々が使用する空間、特にエントランスホール、講堂、聖堂は、都市の喧噪の真ただ中にありながら、自然光あふれる静粛な空間の中で、日々の研讃が行われるよう計画した。

所 在 地：大阪府吹田市
用 途：宗教施設
竣 工：2013.5
構造規模：鉄骨造
地上6階建
敷地面積：1,635.06㎡
延床面積：2,837.64㎡
写 真：小川重雄写真事務所
小川重雄

第6回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 古谷 誠章（早稲田大学教授）



1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞 （賞状と記念盾）
建築人奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第6回 対象作品

「建築人」2013年1月号から2013年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（2段階審査）

一次審査 建築人誌面より選定
二次審査 二次審査資料により選定（現地視察含む）

■ 受賞発表

建築人2014年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』Gallery 掲載作品 募集中 2013

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円
カラー 1ページ 10万円
モノクロ 2ページ 10万円
モノクロ 1ページ 5万円

※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会「建築人」
Gallery 建築作品掲載係まで。

この夏、四国の高松にある香川県立ミュージアムで、丹下健三（一九一三～二〇〇五年）の大規模な建築展が開催された。なぜ香川なのか。丹下の生誕一〇〇年が瀬戸内国際芸術祭二〇一三と重なったことも一つのきっかけだろう。しかし、それ以上に、彼の代表作の香川県庁舎が今も現役の健全な姿で使われており、さらに、丹下のこの建物がその後のさまざまな建築家の活躍を促進してきた歴史を見直そうという機運の盛り上がりが大きく作用したに違いない。そこで、香川県庁舎がもたらしたものは何かについて考えてみたい。

一九三八年、日中戦争下に大学を卒業した丹下は、資材統制によって木造バラックしか許されない中、コンペなど紙の上でしか建築を構想できない制約の下で建築家への道を歩み始める。それは、戦後に彼が初めて実作として広島平和記念陳列館を完成させる一九五二年まで続く。おそらく、こうした時代の宿命が丹下の建築思想を育んでいったのだろう。また、それが、彼の建築が理念的で自己完結し、どこか孤高の存在感を醸し出している理由なのだと思う。実は、香川県庁舎の竣工時の評価には厳しいものがあつた。中でも、一九六〇年度建築年鑑賞の審査では問題作として議論された痕跡が読み取れる。例えば、建築評論家の藤井正一郎は、次のように記していた。

「香川県庁舎を訪れたとき、まずわたしは丹下健三の「うまさ」に驚きました。（中略）しかしその「うまさ」は、彼の貴族主義的な芸術感覚の所産であり、その意味においては川添登のいうように「彼もようやく自分の言葉をものにした」のかもしれません。しかし、コンクリートという材料も、

記憶の建築

松隈 洋

香川県庁舎 1958 年
丹下健三が蒔いた一粒の種



南側からの庁舎外観



1 階ロビーと猪熊弦一郎の陶壁画

あるいはその施工法も、彼の芸術感覚の下に「隷属」させられているところに、わたしは彼の作品の大きな危険を感じます。」

藤井は、丹下の「不遜なまでの芸術的個性」への危惧の念が拭えなかったのである。一方、構造家の木村俊彦は、その無理な構造表現に次のような疑問を抱いていた。

「この建築家の作品から、つねに一貫して感じられるのは、その強固な意志の力である。全体を構成する一つ一つの部分が、明確な構想力のもとにまとめられて、破綻や不均衡が見出せない。その解決がみごとにために、見るものの心は建築家の意図のまま従うばかりではない。（中略）この建築家が、一つの独自のスタイルをもつのは、たんに形の完成を追っているからではなく、まして設計の条件がよいというふうなことではなく、建築を構成し規定するすべての

の傑作と見た。（中略）ただ、私がこれを作品賞に推すことを断念したのは、（中略）何となくこの作品に自己主張の過剰を感じたこと、第二には私はこの建物の工事中に訪ねる機会があつたが、高強度鋼の異形鉄筋が凄じいほどに入っており、形というものがこれほどまでにしなければ美しくならないかと思つたことであつた。」

そして、建築史家の稲垣栄造は、丹下の建築が持つ特質を次のように論じていた。

要素を、統御し克服せねばやまぬその意志の強さに負うと見るべきである。」（『建築年鑑60』美術出版社）

ここに共通するのは、建築のすべてが丹下の強固な意志の下に統制されており、その完成度が高ければ高いほど、近寄りがたいものになっていることへの違和感である。だが、その一方で、建築評論家の神代雄一郎は、「建築家は地方で何をしたか」という文章の中で、次のように書き留めていた。

「地方をまわつてみて、東京の建築家がやった仕事で一番いいと思ったのは香川県庁舎であつた。地方で東京の建築家がやった仕事の良否を決定するのは、ただその建築だけが良くても駄目なので、その建築がその地方の建築を前進させるようなものであつたかどうかできまるのである。いま高松にいて、（中略）ここでコンクリートや石に対する理解や情熱がどんなに高まつており、地方性の獲得といったことがどれほど熱心に探求されているかを知ることができる。これらに香川県庁舎の影響がはっきりと見られることは、丹下のねらいが正確だったことを物語るものであり、同時に地元がそれを受けて立つほどしっかりしていたのである。極端な言い方をすれば、もはや高松は丹下を必要としないだろう。しかし高松にはいつまでも丹下の投じた一石が生きているであろう。」（『建築文化』一九六〇年十一月号）

何がそうさせたのだろうか。求められたのは戦後復興の象徴として民主主義の時代に相応しい庁舎であり、そこには、金子知事からの信頼や彼に丹下を紹介した猪熊弦一郎との共同にとどまらず、県建築課の山本忠司や地元の職人まで、多くの人々との出会いがあつた。そして、竣工後も、彼らは丹下の蒔いた種を糧に研鑽を続けていく。そして、県庁舎も心の拠り所として大切に普段使われてきたのである。こうして育まれた建築への愛着こそ、丹下の意図を超えて香川県庁舎が稀有な形で地元根づくことができた要因だったのだと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

かつて芝居町として、今は「くだおれ」の街として賑わう道頓堀。当時「道頓堀五座」と呼ばれた芝居小屋の資料が、昨年大量に発見されたのをご存知でしょうか。これをきっかけに、今年1月に道頓堀商店会と関西大学との間で協定が結ばれ、道頓堀の景観復元や活性化への取り組みが始まりました。この産学連携による試みについて、橋寺知子さんにご紹介いただきました。

芝居町道頓堀の景観復元への試み

橋寺 知子

1965年神戸生まれ。1988年関西大学建築学科卒業。現在、関西大学環境都市工学部准教授。専門は近代建築・建築保存。学生の発言には時にハッとさせられます。大阪学と称し、大阪の歴史文化の講義と町歩きをしました。彼ら曰く、教科書の日本史ではなく、古代以来一統きの「大阪史」が新鮮だったと。教室での耳学問が、現地に立ちリアルに感じられる瞬間が学びの原点と思います。

道頓堀今昔

道頓堀は、改めて言うまでもなく、大阪観光で欠かせない名所の一つで、国内外から多くの人々が訪れ、巨大看板、動く看板の前で写真を撮り、たこ焼きやラーメンといった庶民的な食を楽しんでいる。私の世代なら、戎橋橋詰のキリンプラザ大阪こそ道頓堀の建築的イメージだった。ポストモダン建築の華やかさというか、ギラギラ感がよく合っていたように思う。現在、跡地には若者に人気のファストファッションの大型店舗が進出し、世界共通の、つまり特段大匠的ではない雰囲気も漂う。この界限にも全国チェーンの飲食店や喫茶店の看板が増えている。道頓堀界限の出入は増しているが、チェーン店の増加によって、街の個性は薄れているようにも思える。

そんな道頓堀が、戦前まで「芝居町」として栄えていたことをご存知だろうか。現在、劇場としては松竹座があり、



図1 道頓堀の着色絵はがき 右手の劇場は中座(関西大学大阪都市遺産研究センター蔵)

歌舞伎やミュージカル、ジャニーズの公演まで幅広く催されているし、三〇年前なら、中座や角座といった昔ながらの名称をもつ舞台があり、演芸場として笑都・大阪の風景を作っていた。この時代を知る方は今も少なくない。だが、芝居とともに美味しいものを飲み食いし、浜に建ち並ぶいろは茶屋で休憩もして、一日がかりで歌舞伎や文楽を楽しんだ古き良き時代をご存知の世代はかなり少なくなっている。

道頓堀川は江戸初期に開削され、地域振興のため大阪の芝居小屋が南側に集約されたのが芝居町道頓堀の始まりだ。賑わいは明治期にも引き継がれ、浪花座、中座、角座、朝日座、弁天座は「道頓堀五座」と呼ばれ、大きな瓦屋根をいまだく日本の伝統的な劇場の姿は豪壮だった。通りに洋風のカフェもあり、昭和初期にはネオンや電飾が登場し、流行歌にも歌われた、道頓堀のきらめく夜の風景が出現したのだが、一九四五五年の空襲ですべて消失してしまっった。

芝居町道頓堀のCGによる景観復元

関西大学大阪都市遺産研究センター(以下、センター)⁽¹⁾では、そんな戦前期、特に大正期の道頓堀の景観のCGでの可視化にとりくんでいる。新しい知見や表現を加え、年々バージョンアップを図っている⁽²⁾。当時から観光名所だった道頓堀は、多くの絵はがきや写真資料が残っており、景観復元は簡単そうに思える。だが図面等の詳細な資料はほとんど残っておらず、CGにせよ、模型にせよ、建物として建ち上げるためのデータの収集は容易ではない。軒の高さでさえ正確には分からず、内部については、役者を写

刺激があるものと期待される。

中村儀右衛門資料を中心とした研究成果の発表に関しては、まず地元の方に聞いてもらおうと、道頓堀で連続シンポジウムを開催している。そこで生活する者しか知らないこぼれ話を披露していただけることもあり、発表者も得るものがある。まだまだ謎が多い中村儀右衛門に関しても、研究成果の発表を糸口に、ご遺族に連絡を取ることができた。秋にはまた一歩、芝居町道頓堀の風景が見えてくるかもしれない。

うめきたのような新しい開発地と比較する時、道頓堀が誇れる点は、建物そのものは失われていても、間違いなく江戸期からの歴史と伝統が重層しているという点だ。戎橋付近は賑やかだが、堺筋寄りの部分は人通りが若干少ない。道頓堀五座の跡地で舞台が復活したのは前述の角座だけで、特に東部の弁天座、朝日座の跡は未だ空地である。研究成果を活かし、戦前の道頓堀をイメージできるような要素を、埋め込めないだろうか。時代に応じて変化し、常に革新的であることも大阪らしさの一つだ。奇抜なビルがあるかと思えば、かつてのように大人が落ち着いて楽しめる上方文化の殿堂もあるような、そんな道頓堀の出現に、センターの研究成果が間接的にでも役立てられればと思う。

- (1)同センターは、大阪の都市遺産を史的に検証し、その継承と発展を目指して二〇一〇年四月に設置された。学内外のさまざまな分野の研究員が集い、大阪という都市を多角的に探っている。組織や活動に関しては「<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-tochi/index.html>」を参照のこと。
- (2)右記のホームページで動画を見ることが可能。
- (3)近代建築画譜刊行会「近代建築画譜近畿篇」、昭和十一年、三六五頁
- (4)中村儀右衛門資料の概要については、蔵田貴・藤岡真衣「大阪都市遺産と道頓堀―大阪の劇場大工中村

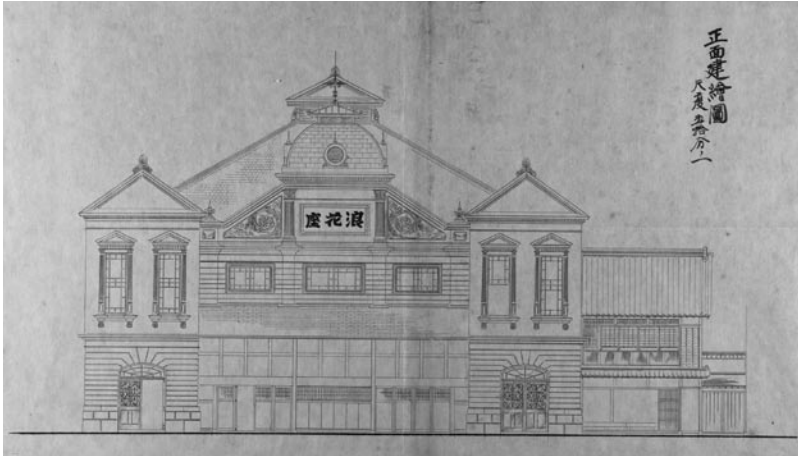


図2 浪花座正面図 幻の洋風劇場案か(関西大学大阪都市遺産研究センター所蔵 中村儀右衛門資料)

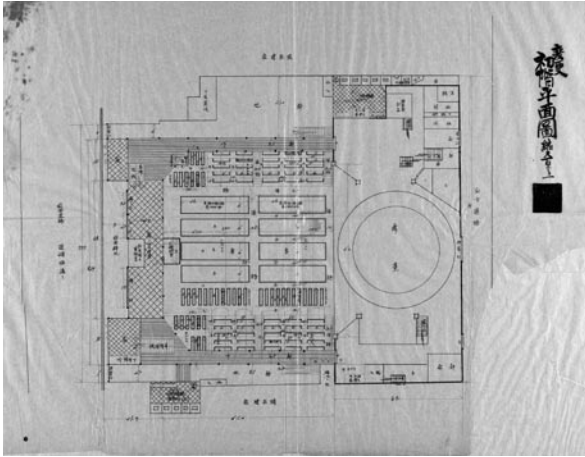


図3 角座平面図 枡席から椅子席への改修時の検討図面か(同左)

道頓堀のこれから―関西大学と道頓堀商店会の連携

今の道頓堀の原点は、芝居町道頓堀にあるといえるだろう。もともと劇場があり、芝居見物には「かべす(菓子・弁当・寿司)」が欠かせないから、おいしいものが集まり、また粋で新しいもん好きのお客さんに合わせ、洋風のカフェや楽器店等の魅力的な店が建ち並んだ。今日の巨大看板や動く看板も、観る人を楽しませ、笑ってもらおうという大阪らしいおもてなしの表現と分析できるそうだが、一般には「コテコテ」のイメージが強く、ソースとラーメンの匂いが漂い、昔の風情を知る人には少々近寄りたがたい雰囲気もある。また、ふらりと訪れただけでは、伝統ある町の歴史を気付かせてくれる要素は非常に少ない。

芝居町道頓堀のCGが縁となり、今年一月、関西大学と道頓堀商店会は連携協力協定を結んだ。道頓堀には若者が多いように思うが、意外と地元大阪の学生は道頓堀に足を向けない。親水空間とんぼりウォークでの盆踊りや、手描きの提灯で風情ある道頓堀川万灯祭など、道頓堀商店会が中心となって、催しもいろいろ開かれている。また二〇一五年の道頓堀開削四〇〇年に向けて、イベントや施設整備も行なわれる予定だ。今夏、長く空地で殺風景だった角座の跡地に、姿は全く異なるものの、舞台が復活した。これから道頓堀でのさまざまな行事に学生が積極的に参画することで、双方に新鮮な

した舞台写真はあっても、通りからどんな空間を経て客席へ至るのか、全く資料がない。商業建築は、建築専門誌への掲載も限られ、設計者・施工者についてもあまり研究されていないことが多い。さらに一歩踏み込んだ景観復元には、図面などの建築資料が必要だった。

中村儀右衛門資料について

二〇一二年春、センターは大阪の劇場資料を多数含む「中村儀右衛門資料」を東京の古書店から入手した。中村儀右衛門の名は、『近代建築画譜近畿篇』⁽³⁾で角座の一九二〇年改築時の施工者として記載があるが、近代建築の研究においては、ほぼノーマークの大手であった。自筆の履歴書によれば、一八五二年に代々大阪で大工を営む家に生まれ、明治初期に関東で近代建築の現場にも携わって修業を積み、一八九一年頃から大阪を中心に劇場や寄席等の建築を多く手がけた。センターが所蔵する資料は四五五点を数える。そのうち二九三点が建築図面、仕様書、勘定書等の建築関係資料、また一三二点それぞれの劇場で公演された演目の大道具の詳細を描いた大道具帳である。中村儀右衛門は、劇場そのものの建設も、また公演ごとの大道具の制作も、両方を手がける劇場大工であった。資料には明治中期から昭和期の資料が幅広く含まれており、後を継いだ息子・宗三の描いたものも含まれている。これらは設計・建設に携わった大工の家に保管されていた資料であり、完全にそろうた実施案の図面はなく、幻の計画案や設計途中での草案、改修による設備の変更案、役所への届出の写しなど、仕事の実像が見えそうな資料が多い。書き込みなども多

儀右衛門資料の紹介をかねて、「『大阪都市遺産研究』第三号(関西大学大阪都市遺産研究センター、二〇一三年三月)に詳しい。



図4 今夏復活した道頓堀角座 芝居小屋のシンボルである櫓が展示されている



図5 とんぼりウォーク兩岸の提灯(道頓堀川万灯祭)

連載第三回 梼田 洋子

一九八四年 京都工芸繊維大学工学学部
住環境学科卒業
一九八四年 川崎建築構造研究所
一九八九年 桃李舎設立
一九九三年 京都工芸繊維大学大学院
工学科学研究科修士課程修了
現在 京都工芸繊維大学、岡山県立大学
非常勤講師

主な受賞 日本建築学会技術部門設計競技優秀賞
ひょうご住宅耐震改修コンペ最優秀賞
JSCA賞作品賞
日本建築学会作品選奨
都市住宅学会業績賞
大阪市ハウジングデザイン賞

ひろば HIROBA

建築構造案内

二〇三年度のHIROBAは「建築構造案内」と題して、関西で活躍する構造設計者にインタビューし、その人物像や考え方を紹介していく。

第三回と第四回は、今年創立二十五周年を迎えるという有限会社桃李舎の代表、梼田洋子氏。関西を代表する女性構造家だ。高度な構造設計を実現する傍ら、建築以外の多様な事象にも関心、疑問を持ち、活動されている。それら全ての活動の根底にある温かい人間性を感じられるインタビューであった。

構造設計の道へ―川崎福則氏との出会い― 梼田さんは、どのような経緯で、構造設計の道へ進んだのでしょうか。

「私が建築を学んだ京都工芸繊維大学は、意匠系のデザイン教育に力を入れていました。当時は、社会に出たら構造を考ええてくれる人がいるからと言われ（笑）、設

がつてくるのを、私は息をつめて見てました。ときどき、『まっさんだったら、こんな時はどう考える？』と聞かれました。私が所内で一番年下だったこともありですが、一番、そういうことを横で教えてもらったと思います。」

―宝となるような貴重な経験ですね。― 「また、『個』が光っていないと駄目だ、とよく言われました。最初は怖いもの知らずで元気があったのに、仕事がかつてきたらおとなしくなつて、ごちんまりとまとまり始めると『この頃まっさんは面白くないですね。もっと自分を出してください』と言われるんです。所員が互いに刺激しあつて、事務所が活性化することを、望めました。

今こうして話していて、私も事務所と同じことを言っているのに気づきました。私のために働くのではない、この場所であなた方自身がやりたいことをできるように私はその場をつくるから、のびのび仕事して、つて。」

心に背く仕事―独立・桃李舎設立へ― そんな素晴らしい川崎事務所を、四年ほどで辞めて独立されたのはなぜですか。とても早いように思うのですが…。 「川崎事務所に入所した頃、事務所は原発の仕事を請け負っていました。生意気にも川崎さんに、『そんな仕事を請けてほしくない。お給料なんか遅配になつてもいいから、本来の事務所の仕事をやりましょう』と言

いしましたが、『そういう仕事をするためにこれがある』と言われました。川崎さんが亡くなつてわかりましたが、当時は構造技術者の地位が低く、建築家と協働する設計料はとても安く、事務所は火の車でした。今なら川崎さんの気持ちがよくわかります。ある日、福井県で、原発の反対運動に

計課題では構造のことは、ほとんど考えませんでした。断面図の天井懷は墨で塗りつぶすので、梁は見えないし。

一方で、自分の設計のスタイルというものが無いことに、不安を感じていました。三回生になつて、シエルやドームといった基本的な構造システムを、それが表現されている建物という授業が始まりました。そこでマイヤーの橋やサリネンの建物など、構造体の綺麗な建築を見て、とても感動しました。

その頃から、力の流れが見え、骨組みの美しい設計ができるようになっていと思ひ始めました。それを自分のデザインのベースにしたい、と。それで構造のゼミに行きました。でも、構造がわかつた上で、意匠設計をしたいと考えていました。」

―ところが、就職も川崎建築構造研究所と、構造設計を続けられたのですね。― 「就職担当の山内陸平先生に『設計事

出会いました。漁師の人たちが大漁旗を振つて抗議をしているんです。その時から、原発のことを勉強し始めました。なぜ原発なのか、原発の仕組みとは、とか。それが分かつてくると、造るべきではないと思いました。葛藤でした。」

―自分が造りたくないものを設計しなければならぬのは、本当に辛いですね。― 「続いて沖縄の仕事が入ってきました。パ

ブルの頃ですから、水中ディスコ（笑）とかがあるようなリゾート・ホテルでした。

向こうでアパートを借りて、みんな交代で現場監理に行かせてもらえたんです。とても嬉しくて、水着をかばんに入れました。でもそこで、沖縄の現実を目の当たりにしました。基地のことも、こちらの新聞と向こうの新聞とでは、内容が全く違う。米軍の暴行も日常茶飯事で、『何だ、これは』と。そこからまた、日本とアメリカの関係などを勉強し始めました。

ホテルの建設予定地を見に行くと、とてもいい海岸なのです。これまでは裸で子どもたちが泳いでいるような海岸が、プライベートルビーチになり、子どもたちは締め出され、外からやつて来た人が、その閉じられた所で遊んで帰っていく。でも、それは外資系のホテルで、地元にはお金は落ちないのです。」

―東京へいつてしまう訳ですね。― 「そうなんです。それでまた『こんなの造るべきではない』と。

川崎さんは、私が何か悩んでいることを察しておられたので、『どういう経緯で建築の計画が決まっていくかを知りたい』ということを話しました。川崎さんは、心の広い方で、『それなら、違ふところで勉強しなすか？』と、日建設計で当時できたばかり

務所に行きたい』と伝えたのですが、私は構造ゼミでしたし、山内先生は常々『女性

は構造設計に向いている』と思つておられたようで、川崎事務所を紹介されました。とにかく所長に会つてこい、と。

あまり気が進まなかつたのですが、行つてみると、事務所が入っている建物に二目で惹かれました（笑）。淀屋橋の芝川ビルだったんです。当時は今ほど綺麗ではなく、それがまた怪しい感じで、古本屋や古着屋などが入つていて、何か不思議なビルでした。事務所の自由な雰囲気にも惹かれて、ここで働きたい！と思いました。」

―川崎先生や事務所の様子は、どのようなものだったのですか。― 「建築家とひとつずつ創りこんでいくアト

リエ事務所でした。渡辺豊和さん、永田祐三さんといった関西の色濃い建築家との協働がありました。渡辺さんの龍神村民体育館は建築学会賞、永田さんのホテル河久

の都市計画の『スタジオ』を紹介して下さつて、面接を受けて、働くことになったのです。

当時そこでは、西梅田のボリウムスタジオ、阿倍野の再開発など、大きなまちづくりをやつていました。そこにいると、一気にそんな大きな街に関われるので楽しいのですが、原発を見て、沖縄を見て、自分が勉強したいと思つて来たのは、これなのか？と。再開発の現実も見えて、これが本当にしたいことか、とまた考え始めました。

その頃、独立したての若手の建築家が、私が構造事務所を辞めたと聞いて、相談を持ちかけてきました。アジアのお金のない学生の就学支援のための下宿『アジア・ハウス』を建設するので、その構造設計を頼みたいというのです。みんな手弁当で、寮母さんや有志がお金を出し合つて、大工さんや工務店、鉄筋屋さんもみんな自分たちで西成から集めてくる、と。

―素人が集まつてつくつていく雰囲気だったんですね。― 「はい。どんな下宿にするか、どんな建物

にするか、みんなで集まつてワイワイやつていました。私はまだ一人で全てを担当したことがなく、『私一人で構造設計はできませんよ』と伝えていたのですが、その集会に呼ばれました。そこで寮母さんたちが、『安全な建物できますか』『どんな骨組みになるんですか』とか聞いてくれるんです。自分なりに考えて答えたら、みんなちゃんと聞いてくれるんですね。その建物は作るべきだと思つたので、運営について意見も言いました。単なるボランティアではなく、構造設計者という立場で参加した方が、みんなが意見を真剣に聞いてくれて、より深くそこに関われる。『やっぱり私、構造やんか』と、その時に気づいた

は村野藤吾賞を受賞しました。川崎さんでなければできない設計でした。

また、川崎さんは関西の仲間と、日本建築構造技術者協会（JSCA）の前身、構造家懇談会を立ち上げて、事務局を担つていました。構造技術者という職能をどうやって確立するか、いつも議論されていました。」

―川崎先生は、そのように意識の高い方だったんですね。― 「川崎さんは、スタッフに『所長』ではな

く『川崎さん』と呼ばせました。よく、仕事中の川崎さんに、『まっさん』と呼ばれて、机の横の木の丸椅子に座るように言われました。川崎さんが、建築家の意匠図の上に、トレーシングペーパーを広げ、上から太い鉛筆で、柱や梁の計画をしていくのです。サツシや間仕切のか細い線が消えて、そこに柱と梁の力強いストラクチャーが立ち上がつてくるんです。同時に、その建築のエッセンスというか、不明瞭だった建築家の意図が浮かび上

のです。社会と関わり、何かを変えようとする時に、『私はこれが専門です』という地に足の着いたとろがあることがいいのだと。

こんな小さなものでもひとつずつ、なぜここにこれを作るのかといった所から一緒に考え、仕事を通して社会を変えていけたら…と考えると、独立しありませんでした。ようやく二十代の自分探しが終わりました。

―経験が少ないまま独立されて、どのように軌道に乗せられたのですか。― 「最初の十年間は、とにかく何でも吸収し

ようと、構造設計の実力をつけるために、勉強の期間だと位置づけました。仕事をしながら大学院にも行きました。独立後も、川崎さんの仕事を手伝い、川崎さんが紹介してくださつた大手ゼネコンの構造部の仕事を外注で請けました。技術者の皆さんから教わることは多く、貴重な経験になりました。

やつと鉄骨もRCも一通りできるようになつて、これでやつていけるなと思つた頃に、同世代の建築家が、独立を始めました。私はちょうど四十歳でした。末廣香織さん、末廣宣子さん、小澤丈夫さん、森下修さんといった建築家との出会いがあつて、いっしょに悩みながら建築をつくるうちに、仕事がどんどん面白くなつていくんです。」

―桃李舎の所員は、代々全員女性だと聞いたのですが、意図してのことなのですか。― 「いいえ、偶然です。今スタッフは全員大学の後輩ですが、先生が送り込んでくださるんです。

女性は結婚・出産で、一回仕事を辞めざるを得ないこともありますが、桃李舎では去年、床に布団を敷いて、スタッフの赤ちゃんを寝転がしながら、仕事してたんですよ。就職は未だに女性の方が不利で、優秀な人

でも就職しそびれることもあると思います。そういう人が働けるように、また、結婚して家においてもネットワークで一緒に仕事ができるとか、みんなに自分の可能性を広げられる場所を提供できれば、と思っています。」

――女性が仕事を続けられる、一生の仕事にできるというのは素敵ですね。これからの日本にとっても非常に大事だと思います。

次世代へ伝える

――大学で教鞭もとられていますますが、どのようなものなのでしょうか。

「奈良女子大学の住居学科では、JSCAの仲間で、半年の講義を分担しました。私は、耐震診断の実践的な講義をしました。大学がセミナーハウスとして使う奈良町の古い住宅に学生を連れて行って調査をし、調査結果をもとに、震度六強の地震で建物が壊れないかどうか計算をしてみよう、というのをやりました。他の人は、大工工事、積算、構造概論などを教えました。」

――そのようにトータルで勉強するほうが、木造を設計するには良いですね。

「母校の京都工芸繊維大学では、大学院生に、建築家と設計した構造計画の話をしています。」

岡山県立大学では、構造を教えている友人の津田勢太さんと呼ばれて、一緒に授業をしています。昨年は構造模型を作らせました。構造に特徴のある建築をスライドで見せながら、二人でその建築について話します。楽しそうに構造を語る大人を見るのも学生にはいい経験だと思います。学生が建物を選んだら、どういう模型を作るかをアドバイスします。建物によって、全体よりもディテールを作ろうとか、建て方の順番、過程を作る

ほうがいいんじゃない?とか。津田さんは発想が柔軟で、他学科の先生も授業に巻き込みました。その先生は、ある自動車メーカーのモデラーをされていたから、模型の素材や加工の方法をアドバイスしてくださいました。横で聞いている私自身がとても勉強になりました。行く度に、模型の精度がどんどん上がっていつ、すぐ面白い体験でした。」

――素材を知ることから始めて模型を作ることは、構造にとつて大きいと思います。接合等の問題も分かつて素晴らしいですね。

トーチカ―地下発電所

「事務所の若いスタッフを育てながら、もう少し広い範囲で、若い人たちのためにできることをするというか、次世代にバトンを渡すことを、五十代の課題にしました。そのひとつとして、トーチカでの勉強会『地下発電所』の活動があります。今は年上の方も参加されていますが、最初は、自分よりも若い人たちに入ってもらい、様々なテーマを提供して一緒にみんなで考えよう、と思っていました。」

――どのようなきつかけで始めたのですか。

「ある日、ビルマアカフェの高岡伸」さんが、鉄道広告社というレトロなビルの二室を『梶田さん借りませんか』と声をかけて下さったんです。見に行くくと魅力的な応接間でした。借りるなら、どんなふうに使おうかなと楽しい想像をしました。普段会えない人にゲストに来てもらつて、普段あまり考えないようなテーマのことを考える場所にするのはどうかな、と。ゲストは私が会いたい人にお手紙を書くと思ったんです。ところがその部屋は埋まつてしまつて、代わりに高岡さんが別のビルの地下室を無料で貸してくださいました。それが、『地下発電所』の始

まりです。みんなそこで良質なエネルギーを生み出して、世の中に発信していこう、と。そのうち、自分の場所が欲しくなり、こゝ実家のガレージを改修して使うことにしました。

この場所につけた名前『トーチカ』は、ロシア語で『塹壕』という意味で、この間口が狭くて天井が低く奥行きのある形状にピッタリでしょ。『桃近、桃地下』にもかけています（笑）。

――ブログ「トーチカ通信」を拝見すると、憲法、沖縄、水俣、震災、原発のことなどが分かりました。梶田さんは、実際に水俣や東北、福島へ足も運んでいるのですね。

「やはり原発というのが私が独立するきっかけだったので…。あの時、二十五年前に大漁旗の抗議を見て、あれだけ原発のない暮らしについて考えたはずだったのに、いつの間にか意識から消えていった。あの時よく言われたのは、『もっと現実的にならなさい』ということ。実際に原発がなかったら、空調やコピー機なしで生活できるのかとか、あるところで自分をごまかしながら、原発というものに目を閉じてきたと思います。やはりここに来てもう一回、私は原発に向き合わないといけない、今度は逃げない、と思つて、今、福島に関わつています。

東北の震災があつて、地下発電所も変わりました。最初は自分の興味だけで会いたい人にお越し頂いていましたが、今の社会で問題になっていることをテーマに、ゲストを考えるようになりました。ドキュメンタリー映画を観てみんなで一緒に考えようとか。ここから広がっていくような、次の活動・思考につながる場にしたいと考えています。」

――他の人の考えを知り、みんなで一緒に考えるという、とても価値のある場所ですね。このトーチカの大きな窓のあるファサードは、明かりが漏れることで、まちづくりにも貢献しているように思えます。

「ありがたいございます。もとはガレージのシャッターだったんです。向かいの家も隣もシャッターで、夜になつたらこの通りは真っ暗になっていました。

青木仁さんの『日本型まちづくりへの転換』という、一人でも始められるまちづくりを呼びかけた本を読んだのですが、例えばファサードを変えるだけでも、それがまちづくりになるとあつたのです。いつか改修したいと思いがらでなかつたのですが、東北の震災が踏み切らせました。あの春に着工しました。まち並みにもささやかながら貢献しつつ、こゝを人が集まれる場所にしようと考えました。いくら耐震補強をした家で助かつて、次は、まちの人たちの助け合いや連携が大事になることを、東北に行つて実感しました。こゝを町内の人が集まれる場にしたいと思いました。」

――ちなみに桃李舎という社名は「桃李もの言わざれど、下、自ずから蹊（みち）を成す」という故事から引用したそうですね。

「桃や李（すもも）はしゃべらないけど、おいしい実をつけると自然に人が集まるようになり、いつしかその木につながる小さな道ができる、という意味です。そんな事務所にしたい、と願いを込めました。」

――トーチカにも通ずるものがありますね。今回は、建築、構造についての幅広い活動にまつわるお話を中心に伺つ。

聞き手／牧野隆義 谷川健二・荒木公樹・中村尚子・奥河歩美（文責）

西有田タウンセンター

2006年 日本建築構造技術者協会

JSCA賞作品賞 受賞作



撮影：岡本公二

INFORMATION

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

会員の皆様へ
「応急危険度判定士」資格取得のお願い

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。
つきましては、判定士の資格をお持ちでない会員の方は、下記の判定士養成講習会を受講され、判定士登録をしていただきますようお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会

10/23・12/18・2/19 CPD4 単位

日程 ①10月23日(水) ②12月18日(水)
③2月19日(水)
時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
※応急危険度判定士登録時に必要な書類
①建築士免許証の写し(1枚)。
②顔写真(カ-2枚。6ヶ月以内。無帽・無背景・正面上半身・縦4cm×横3cm)。
申込先・問合先
一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

平成25年度 建築士定期講習

11/30、1/31、3/26 CPD各6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方が対象です。尚、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場

11/30(土) 9:40～17:30
たかつガーデン、定員200名
会場コード5C-53

1/31(金) 9:40～17:30
たかつガーデン、定員200名
会場コード5C-03

3/26(水) 9:30～17:30
大阪国際会議場、定員300名
会場コード5C-54

■申込締切日

11/30(土)開催分:10/31(木)申込書必着
1/31(金)開催分:12/25(水)申込書必着
3/26(水)開催分:2/28(金)申込書必着
※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。

※定員に達し次第、受付を終了します。

■受講料 12,900円(消費税含)

■申込書配布・受付場所

大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

平成25年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》

10/30・11/27 CPD5単位

平成24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり、最新の診断技術を取得していただく講習会です。
日程 ⑤10月30日(水) ⑥11月27日(水)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円、会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

平成25年度既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会

11/8 CPD6単位

既存建築物の耐震診断・改修等に関する技術者の育成を目的とする講習会です。
日時 11月8日(金) 10:00～17:20
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 100名(申込先着順)
受講料 会員6,000円 一般8,000円
テキスト代 (a)8,800円 (b)7,350円

平成25年度既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会

11/19～20 CPD単位:1日5単位

既存建築物の耐震診断・改修等に関する技術者の育成を目的とする講習会です。
日時 11月19日(火)～20日(水)の2日間
①10:30～16:00 ②10:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 100名(申込先着順)
受講料 会員8,000円 一般10,000円
テキスト代 14,000円

平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》

12/17 CPD6単位

大阪府マニュアルに基づいて限界耐力計算による診断技術を習得していただく講習会です。
日程 ①12月17日(火)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 3,500円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建築士法にもとづく「建築技術講習会」

平成25年度 第4回
今さら聞けない設備図の基本②と最新のBCP
11/13 CPD3単位

今回の建築技術講習会は、設備図の読み方全3回シリーズのうち「電気設備」編となります。建築技術者の方を対象に、模範設備図を使って電気設備の凡例や図面構成及び内容の要点を解説します。
日時 11月13日(水) 13:30～16:15
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 ・設備図の読み方(電気設備)
・BCPの具体策と取り組み
定員 140名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円、
一般5,000円(テキスト代含)

景観まちづくり建築専門家等育成講座

(全9日間) CPD27単位

本会では、景観形成等のまちづくりを促進させるために、地域の特長ある景観をまちづくりに活かす能力を持った人材育成が特に重要と考え、景観まちづくりに関心のある建築士や地域の担い手を対象とした育成講座を公益社団法人日本建築士会連合会から助成を受けて開講します。
全ての講座を受講された方に受講修了証を授与し、建築士会連合会の全国受講修了者名簿(仮称)に記載する予定です。
日程 11月2日(土)～3月15日(土)
全9日間(土曜日13時より)
内容 景観まちづくり基本講座(座学)＋実践講座(まち歩きやワークショップ)
大阪市の上町台地(夕陽ヶ丘・四天王寺エリア)を舞台として、景観まちづくりを実践していくための方法を身につけます。
定員 20名(申込先着順)
申込期間 10月1日(火)～10月10日(木)
(定員に達し次第締切。)
受講料 会員10,000円 非会員15,000円

ちょっと知りたい建築セミナー 設備編「LED照明の今～LEDを使いこなそう～」

11/5 CPD2単位

省エネ効果に優れるLEDですが、その特徴をよく知らないまま安易に採用すると、思っていたイメージと違い戸惑うことになりかねません。そこで今回のセミナーでは、主に住宅の照明計画と、それに伴うインテリアデザインを手掛けておられる、照明デザイナーの日根伸夫さんと西村美由紀さんを講師にお招きし、LEDの照明用光源としての可能性と最新情報、その特性を生かした照明計画についてお話しいたします。

日時 11月5日(火) 18:30～20:30
会場 (株)建築資料研究社大阪本店/
日建学院梅田校
大阪市北区鶴野町1-9
梅田ゲートタワー3F
定員 50名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
講師 日根伸夫・西村美由紀
(Noi Planning Studio(ノイプランニングスタジオ))

シニアサロン第49回例会

「河内ワイン」と「森の10居」を訪ねて
11/6 CPD2単位

今回は、大阪府羽曳野市にある大阪を代表するワイナリーの一つ「河内ワイン」を訪ね、創業当時に使用していたワイン作りに関する機械などを見学、ユニークな「ミニワイン講座」が聞けます。そのあと羽曳野市住宅街に建つ遠藤秀平氏設計のコルゲート銅板が特徴の集合住宅「森の10居」を訪ねます。見学後の懇親会も予定しています。
日時 11月6日(水) 13:00～16:30
集合 13:00
集合場所 近鉄南大阪線「駒ヶ谷駅」改札付近
定員 20名(申込先着順)
申込期限 10月31日(木)
(定員に達し次第締め切ります。)
参加費 1,000円
懇親会参加費 別途4,000円
※申込者の方には、後日参加証を出状します。

すぐに役立つ実践塾

「確認申請のいろ・は」第2弾
～簡単な木造2階建てを申請しよう!～
11/8、11/15、11/22、11/29
各回共CPD2単位

木造2階建てに特化して、基本的な確認申請のながれ、手段について実践セミナーを開催いたします。最近申請業務から遠ざかっていた方、初めて申請業務を行われる方に役に立つように、演習を交えながら確認申請のいろ・はのいから実際の提出書類・図面を作成するまで4回にわたり開催いたします。4回連続受講をお勧めいたしますが、単独の受講も受け付けます。
開催日 11/8、11/15、11/22、11/29
時間 18:30～20:30
会場 (株)建築資料研究社大阪本店/
日建学院梅田校
大阪市北区鶴野町1-9
梅田ゲートタワー3F
講師 一級建築士事務所 設計TANAKA 田中克之
定員 40名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外2,000円
4回連続受講された方に限り、第4回の受講料を半額とさせていただきます。

建築士の会「北河内」東高野街道歴史散策 IN 八幡

～京阪八幡市駅前から始まる歴史街道を散策しませんか?～
11/17 CPD2単位

東高野街道は京から高野山への参詣路として河内国を南北(八幡、枚方、交野、四條畷、東大阪、八尾、柏原、藤井寺、羽曳野、富田林、河内長野)に貫く数少ない歴史街道です。
今回はそのうち京都府京阪八幡市駅から松花堂庭園までを市歴史ボランティアの方の案内のもと散策します。
日時 11月17日 13:00～受付
13:30出発～16:30解散予定
集合場所 京阪八幡市駅 改札出口前

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)

【大阪府建築士会ホームページ】 <http://www.abo-osakafu.or.jp/>

参加費 1,000円
(資料・お茶代含む。庭園入園料、バス代は別途)
※懇親会参加費 別途3,500円程度必要
定員 40名(申込先着順)
行程 13:30八幡市駅⇒神応寺⇒航海記念塔⇒高良神社⇒相槌神社⇒善法律寺⇒正法寺⇒八角堂⇒16:30松花堂庭園まで約3時間程度(歴史散策ウォーキングで紅葉も見れるかも知れません。17:00～19:00(バス移動後)懇親会予定。
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

観光化する商店街!! 天神橋筋を歩く 第33回近畿建築祭(大阪大会)のご案内

12/7

今年は当会が当番会です。日本一長い天神橋筋商店街を中心に、大人も子供も楽しめる盛り沢山の企画を考えましたので、ぜひ、ご参加下さい。
開催日 12月7日(土)
■会場 関西大学天六キャンパス309教室
大阪市北区長柄西1-3-22
■式典参加費 3,000円(おみやげ、昼食付き)
■スケジュール
9:00～10:00 受付
10:00～10:15 オープニング
10:20～10:40 記念式典
10:40～11:30 基調講演
天神橋筋商店連合会会長 土居年樹
テーマ「街が危ない、家庭が危ない、店が危ない」
一日日本の街づくり、街活かしは誰がするー
11:45～12:30 講演会
関西大学准教授 橋寺知子
テーマ (仮)関西大学天六学舎(近代建築)の経緯
17:00～17:30 閉会式
満歩状授与式 大阪天満宮境内
■エクスカッションのご案内
(エクスカッション参加費は式典参加費も含みます)
①天満天神繁昌亭&街歩き
上方落語の唯一席寄席「繁昌亭」で大阪を楽しもう
時間 11:30～17:00
参加費 4,500円(食事券付)
健脚度 ★★ 定員 60名
②八軒家浜から電気船ツアー&街歩き
世界初のリチウムイオン電気船で大阪を眺めよう!!
時間 11:30～17:00
参加費 5,500円(弁当付)
健脚度 ★★★★★ 定員 38名
③ガイドと共に歩く街歩き
知恵とバイタリティも日本一!!
ガイドと行く天神橋筋商店街物語
時間 13:30～17:00
参加費 4,000円(弁当付)
健脚度 ★★★★★ 定員 60名
④住まいのミュージアム&街歩き
平成の天神橋筋商店街から、江戸の町並み、昭和の暮らしへタイムスリップ!!
時間 13:10～17:00
参加費 3,500円(弁当付)
健脚度 ★★★★★ 定員 100名
講演 明珍健二花園大学文学部教授
(元住まいのミュージアム学芸員)
テーマ 大坂の町の成り立ち

その後、住まいのミュージアムに移動・見学
大工棟梁による古式大工道具の実演
⑤スタンプラリー!!
大阪の肝!! かってこてスタンプラリー
時間 12:30～17:00
参加費 3,500円(食事券付)
健脚度 ★★★★★ 定員 50名
申込締切日 平成25年11月1日(金)
申し込み方法
参加者名、勤務先名、TEL、FAX、年齢、性別、CPD番号、第一希望～第三希望までのコース番号をご記入のうえ、11月1日(金)までに事務局までご送付ください。
※詳細は本号32頁をご覧ください。

記のとおりですのであわせてご覧ください。
http://www.pref.osaka.jp/kenshi_anzen/anzen_kaiji/campain.html
また、違反建築防止に関するパネル展を下記の場所・日時に開催します。
1 大阪府咲州庁舎1階
10月1日(火)～10月31日(木)
(土曜日・日曜日は除く)
2 大阪住宅センター花博展示場
11月16日(土)～11月24日(日)
(水曜日は除く)
問合 大阪府住宅まちづくり部建築指導室
建築安全課
Tel.06-6941-0351 内線4326・6282

平成25年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会(第二弾)開催

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・実物大カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
10月:10/3(木)、10/10(木)、10/17(木)、10/24(木)、10/26(土)、10/31(木)
11月:11/7(火)、11/14(木)、11/16(土)、11/23(土)、11/30(土)
時間 10:00～17:00
会場 花博ハウジングガーデンセンターハウス2階
大阪市鶴見区焼野1丁目南2番
鶴見緑地駅より徒歩5分【駐車場(敷地北側の第2駐車場(無料))あり】
費用 1,000円(受講料)＋別途修了証発行手数料
主催・問合 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾
詳細はHP(<http://www.shoene.org/>)もしくは上記問合先へお問合せください。

Administration

行政からのお知らせ

違反建築防止週間

平成25年10月11日(金)～平成25年10月17日(木)

国土交通省及び各特定行政庁においては、建築基準法令違反の建築物の是正及びその発生予防に努めており、その一環として、全国一斉に「違反建築防止週間」を定めて実施しております。人生の中で最も大きな買い物であるマイホームに重大な欠陥があっては大変です。適切な工事監理が行われると共に、建築基準法に定められた中間・完了検査を受検し、欠陥のない適法な住宅を供給できるよう、建築士の皆さんに大きな期待がよせられています。なお、大阪府住宅まちづくり部建築指導室建築安全課のホームページのアドレスは下



近畿建築祭／天満・天神繁昌亭



近畿建築祭／住まいのミュージアム



近畿建築祭／電気船

見学場所 世界的な建築家・丹下健三先生
生誕跡の記念柱、明治期の大規模なレンガ造建築・旧堺火力発電所、昭和戦前の旧ラジオ塔、幕末期の旧堺砲台、旧龍神遊郭跡、など
案内 明治建築研究会 代表 柴田正己
定員 20名(先着順)
問合 明治建築研究会
Tel.072-236-3357

既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・耐震改修設計指針講習会(大阪開催)

日本建築防災協会では、「2009年改訂版既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・耐震改修設計指針・同解説」をテキストに耐震診断・耐震改修の推進のための講習会を開催します。
主催 (一財)日本建築防災協会
日時 10月24日(木)～10月25日(金)
第1日目 10/24:10:20～16:00
第2日目 10/25:10:00～16:00
(16:00～受講修了証交付)
会場 大阪YMCA会館2階ホール
大阪市西区土佐堀1-5-6

定員 250名
受講料 21,000円(テキスト代別途)
問合・申込 (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451
<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html>

国際見本市「LIVING & DESIGN 2013」開催

今年5度目を迎える、住空間、インテリアを対象とした「LIVING & DESIGN」一住まいと暮らしのリノベーションが開催されます。今年は素材や家具等を扱った企業が新たに多く加わり「DRESS UP 暮らしを着飾る楽しみ」をサブテーマに、100社余りの出展者を迎えます。また、講演会では、妹島和世氏をはじめ、3日間選りすぐりの講師によるプログラムがラインアップされています。
主催 LIVING & DESIGN 実行委員会
会期 11月27日(水)～11月29日(金)3日間
会場 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
3Fイベントホール(見本市)、
10F会議室(講演会、セミナー)
大阪市北区中之島5-3-51
見本市会場当日入場料 1,000円
(ただし、招待状持参者、WEBからの事前登録者は無料)
問合 LIVING & DESIGN実行委員会事務局
Tel.06-4801-7179 Fax.06-4801-7152
メール info@living-and-design.com
<http://www.living-and-design.com>

寄附のお願い

公益社団法人大阪府建築士会

大阪府建築士会は、平成 25 年 4 月 1 日の公益社団法人移行に伴い税法上の「特定公益増進法人」となり、本会への寄附については税制上の優遇制度が適用されます。

本会では多くの公益目的事業活動を行っており、必要な資金は、主に会員の方々の会費及び事業収入を充てていますが、今後これらの活動を充実推進させるためには、多くの方々のご支援・ご協力が必要です。

つきましては、本会の事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せいただくようお願い申し上げます。

皆様からいただく寄附金につきましては、本会の「寄附金等取扱規程」に則り、有効かつ適切に管理し、活用させていただきます。

寄附金の税制優遇措置について

「特定公益増進法人」には、法人が実施している公益目的事業を支援するために支出された個人や法人からの寄附金について、下記の税制上の優遇制度が認められております。

個人による寄附	法人による寄附
1. 所得控除 所得控除を行った後に税率をかけるため、所得税率が高い高所得者の方の減税効果が大きくなります。 所得控除額＝（寄附金額－2 千円） 所得税額＝（収入額－所得控除額）×税率 注）総所得金額の 4 0 % の寄附が控除の限度です。 2. 所得控除の計算事例 年中の総所得金額が 700 万円、寄附金額が 10 万円の場合 10 万円－2 千円 ＝ 9 万 8 千円（所得控除額） （控除額 9 万 8 千円は、総所得金額 700 万円×40%＝280 万円の限度内ですので、9 万 8 千円全額が所得控除対象となります）	1. 損金算入 法人による寄附金は、所得金額や資本金額から算出される一定額を限度として損金算入すること（損金の分だけ、課税対象額が減少します。）ができます。 2. 損金算入限度額の計算事例 資本金が 1 千万円、年中の所得金額 1 千 200 万円の場合 (A) 一般損金算入限度額 ＝ ｛(1 千万円×2.5/1000) + (1 千 200 万円×2.5/100)｝ ×1/4＝81,250 円 (B) 特別損金算入限度額 ＝ ｛(1 千万円×3.75/1000) + (1 千 200 万円×6.25/100)｝ ×1/2＝393,750 円 したがって、(A) (B) の合計金額 (A) + (B) = 47 万 5 千円の損金算入が認められます。

※取扱の詳細については、所管の税務署にお問い合わせ下さい。

● 寄附金の種類

本会の寄附金には、次の 3 種類があります。

(1) 一般寄附金

本会の会員を含む広く一般社会に、常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。

寄附金はすべて公益目的事業に使用します。

(2) 募集特定寄附金

本会の会員を含む広く一般社会に、用途を特定して一定期間、募金活動を行うことにより受領する寄附金です。

（現在募集中のもの）

①地域貢献活動支援事業

まちづくりや景観形成などの地域貢献活動を行う団体を公募し、活動の助成を行います。

②大阪建築コンクール事業

建築文化の向上と地域社会の健全な発展を図るため、優れた建築物等を表彰し公表します。

(3) 使途特定寄附金

上記のほか、個人又は団体から受領する寄附金です。寄附者がその使途及び管理運用方法に条件を付けることができる寄附金です。

※ 金銭のほか金銭以外の財産（有価証券等）を含みます。

上記(1)～(3)は、いずれも本会寄附金等取扱規程における名称です。

● 寄附金のお申込み

寄附金お申込みの場合は、ご面倒ですが「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、本会「事務局」までメール又はファックスでお送りください。折り返し「受付番号」をお知らせします。

※「寄附申込書」は、ホームページからダウンロードしてください。

なお、使途特定寄附金の場合は、事前に事務局にお問い合わせください。

● 受領証明書の発行

寄附金が入金されたことを確認した後「寄附金受領証明書」（領収書）を郵送いたします。

本寄附金は、寄附金控除の対象となりますので、確定申告時まで大切に保管してください。

観光化する商店街 !! 天神橋筋を歩く

第 33 回近畿建築祭（大阪大会）のご案内

第 3 3 回近畿建築祭（大阪大会）を下記のとおり開催いたします。

今回、大阪府建築士会では、日本一長い天神橋筋商店街を中心に、大人も子供も楽しめる、盛り沢山の企画を考えました。大阪商人の知恵とバイタリティあふれる天神橋筋商店街にぜひこの機会にお越しください。多数の会員の皆様が集うことを心からお待ち申し上げます。

主催 近畿建築士会協議会（公社）大阪府建築士会

開催日 2013 年 12 月 7 日（土）

会場 関西大学天六キャンパス 3 0 9 教室 大阪市北区長柄西 1 丁目 3 番 22 号

阪急電鉄及び地下鉄堺筋線・谷町線「天神橋筋六丁目」駅下車、北へ徒歩 5 分。

スケジュール	9:00～10:00	受付
	10:00～10:15	オープニング 扇町総合高校吹奏楽部 OHGIES 演奏（予定）
	10:20～10:40	記念式典 ・開催地会長挨拶 大阪府建築士会会長 岡本森廣 ・協議会会長挨拶 京都府建築士会会長 衛藤照夫 ・会旗引き継ぎ ・次期開催地会長挨拶 兵庫県建築士会会長 安田丑作
	10:40～11:30	基調講演 天神橋筋商店連合会会長 土居年樹氏 テーマ「街が危ない、家庭が危ない、店が危ない」－日本の街づくり、街活かしは誰がする－
	11:30～	エクスカーション①②コース参加者は移動
	11:45～12:30	講演会 関西大学准教授 橋寺知子氏 テーマ（仮）関西大学天六学舎（近代建築）の経緯
	12:30～	エクスカーション③④⑤コース参加者は移動
	17:00～17:30	閉会式 満歩状授与式 大阪天満宮境内

式典参加費 3,000 円（おみやげ、昼食付き）

■ エクスカーションのご案内（式典参加費含）

エクスカーションご参加の方には、お名前の入った満歩状をお渡しします

タイトル ★健脚度	内 容	参加費 （式典参加費含） 定員
①天満天神繁昌亭 & 街歩き ★★ 11:30～17:00	上方落語の唯一定席寄席「繁昌亭」で大阪を楽しもう 建設費用は寄付金で賄った「繁昌亭」。募金をした人々の名前の提灯が天井に並べられています。大塩平八郎の史跡めぐり、他。	4,500 円 （食事券付） 60 人
②八軒家浜から電気船ツアー & 街歩き ★★★ 11:30～17:00	世界初のリチウムイオン電気船で大阪を眺めよう !! 環境にやさしいオールアルミ、リチウムイオン電池の電気船で八軒家浜から大阪城や東横堀川、道頓堀川を歴史や由来を聞きながらのクルーズ。 案内 伴一郎氏（伴ビーアール株式会社）	5,500 円 （弁当付） 38 人
③ガイドと共に歩く街歩き ★★★★★ 13:30～17:00	知恵とバイタリティも日本一！ ガイドと行く天神橋筋商店街物語 今回は街の中に隠された知恵とバイタリティの物語を元氣なガイドと一緒に発見していきます。大阪人も知らないディープな天神橋筋を楽しめます。 ガイド：上田聖子氏（トークスタジオ ハーモニービューロー代表ナレーター）	4,000 円 （弁当付） 60 人
④住まいのミュージアム & 街歩き ★★★★ 13:10～17:00	平成の天神橋筋商店街から、江戸の町並み、昭和の暮らしへタイムスリップ !! 大阪暮らしの今昔館で、昔の人の知恵や工夫を体感し、いまの住まいや暮らしを見つめなおしてみませんか？ 講演 明珍健二花園大学文学部教授（元住まいのミュージアム学芸員） テーマ 大坂の町の成り立ち	3,500 円 （弁当付） 100 人
⑤スタンプラリー !! ★★★★★ 12:30～17:00	大阪の肝 !! こってこてスタンプラリー キレイなもん、きちゃんいもん、静けさと賑やかさ、大阪のエエとこがギュッと詰まってます。スタンプラリーで大阪のエッセンスを巡って楽しもう!!	3,500 円 （食事券付） 50 人

申込締切日 平成25年11月1日(金)

参加者名（ふりがな）、勤務先名、TEL、FAX、年齢、性別、CPD 番号、第一希望～第三希望までのコース番号をご記入のうえ、11 月 1 日までに大阪府建築士会までメール、FAX でご送付ください。

＊エクスカーション各コース共定員を超えた場合は、第二希望もしくは第三希望のコースになる場合もあります。

問合・申込 （公社）大阪府建築士会 Tel 06-6947-1961 Fax 06-6943-7103 メール info@aba-osakafu.or.jp

広がってゆく、スマートハウス。 そこに、大阪ガスの「ダブル発電」。

家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」。

昼も夜も雨の日も、24時間、365日発電でき、自宅で使う電気の

約80%*をまかなえる「ダブル発電」が、

家を、暮らしを、どんどんスマートにしてゆきます。



ガスで実現するスマートハウス が、スマート!

※大阪ガス調べ

お問い合わせ先：大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部 都市開発チーム 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37
TEL：06-6586-3241 FAX：06-6586-3259 ホームページ：http://www.osakagas.co.jp

Design Your Energy 夢ある明日を

大阪ガス

理事会報告

文責 本会事務局

日時 九月十八日(水)十六時～十七時三十分
場所 本会会議室
出席 理事三七名、監事二名

(1) 会計報告

八月末日の当期経常増減額は、収益八四、〇三五七九三円、費用五二、六四七、〇五二円、増減三、三八八七四円を報告して承認された。昨年同期に比して、諸活動が若干低迷していることが指摘された。

(2) 理事及び監事の選任規程案

昨年度より継続審議を続けている案件で、従来の選挙制を合議制に変更しようとするものである。運営委員会・正副会長会議を経た基本案では、理事会・総会へ役員候補者を推薦する選考委員会を設置して、会長及び常設委員会からの候補者数及び部門別職種からみた候補者数の調整を行い、委員構成は会長が組織の見直しを含めて将来を牽引する観点をもって留任理事から選任する。本案は十月度理事会で決議する。

(3) 耐震判定評価委員会の設立

耐震法改正に伴う沿道建築物耐震化等の推進に向けて、社会貢献委員会が所管して標記委員会を設立することが承認された。

(4) 建築士会CPD規則

本会CPD規則の中、主に認定手数料の改定案を提示し、承認された。

【報告事項】

- (5) 応急危険度判定士連絡網の確立
- (6) 寄附のお願い(一部変更)
- (7) メールマガジンの再開
- (8) 役員の地域支援分担(一部変更)
- (9) 近畿建築祭(大阪会担当) 案内開始
- (10) 景観まちづくり建築専門家育成講座

建築相談

建築士の見たトラブル事例(十四)
住宅の雨漏り

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の玉水新吾様に原稿をいただきました。玉水さんの専門でもあります雨漏りについて、ご経験からまとめていただきました。

物件は、約三〇年前に大手ハウスメーカーが建設した注文住宅。約一年前雨漏りがひどく、建設したハウスメーカーと一八〇万円の「雨漏り補修工事を契約したものの、雨漏りは止まらなかったとのこと。」「補修工事後、雨漏りが再発した場合には五年保証するとの、担当者による手書きサインが契約書にあり、契約金額の半額が未払い状態でした。」

補修内容は、屋根・外壁の全面に対し、シーリング打ちかえ、および全面塗装。この工事により、雨漏りは止まるとの説明だったようですが、五ヶ月たっても、風の向き・強さに関係なく雨漏りは止まりません。

雨漏りをシーリング・塗装だけで止めようとする考え方はまちがいです。仮に止まったとしても、一時的なもので、再発する可能性が高いものです。やむを得ず、シーリングで雨漏りを止める方法を採用する場合には、施工主に対して十分な説明が必要です。通常は補修した後に、雨漏りが再発すると、工事金額が安くても、施工主は納得しません。

室内側の雨漏り跡が一箇所であつても、浸入口は一箇所とは限ら



写真1 室内の漏水箇所



写真2 漏水の疑われる箇所

ず、複数あることが多いものです。漏水調査は、雨漏り現象を再現する必要があります。」「散水試験」に十分な時間をかけて、雨水浸入箇所を確実に見つけることが大切です。散水試験は急がず、時には二〜三日かけて散水試験を行うこともあります。一時雨散水で出なくても、二時間以上の散水で出る場合もあります。わずかな時間の散水で漏水が確認できないからといって、その部位から漏れないとはいえません。「雨漏りがする」ことの証明はできません。「雨漏りはしない」ことの証明はできません。補修方法は雨漏り箇所を明らかにしてから後

の話です。

また、雨漏りが直らないからといって、安易に他の業者を入れて手直ししないことも大切です。他の業者を入れることにより、ハウスメーカーによる雨漏り責任は免責となり、せつかくの保証がなくなることを意味します。本ケースの大手ハウスメーカーのメンテナンス担当者は、三〇年来的付き合いをしており、大事に付き合う姿勢も重要です。ハウスメーカーは特殊な工法を採用することが多く、一般工務店では施工が難しい場合もあります。

編集後記

筑波幸一郎・荒木公樹・牧野隆義

日本は二〇二〇年に開催される夏季オリンピック開催地に東京が決定し、列島が沸いています。貧しく苦しかった戦後、皆で力を結集させて、高度経済成長を遂げる中開催された東京オリンピックは、まさに、時代も味方に付けた、国家を挙げての一大事業であった。

さて、二度目のオリンピックでいったい何をを目指すのか。先進国の一員として世界から問われている。建築的にみれば、その後の施設やインフラをどうするのかだ。例にもれず、大阪もオリンピック誘致に突っ走っていた時期があった。現在、湾岸に埋め立てた敷地や施設がどうなっているか、みなさんはよくご存知ではないか。毎月、大阪ホンマもんを担当していると、建物の行く末が気になって仕方がない。前に進むことも大事だが、立ち止まり、考え続けることも必要だと思う。そういった目線で大阪ホンマもんを見て頂けたらありがたい。

今月号の建築人インタビューは二井清治さんでした。二井さんでなければ伝えられない大切なことがたくさんあり、インタビュー参加者は貴重な体験をさせて頂いた。深く感謝いたします。なかでも西澤文隆氏の色紙に書かれた言葉が印象に残る。「執拗に心をこめて 屈折に屈折を重ねたデザインを」

昔に比べて恵まれていることを否定はしません。しかし、良いものが産まれる背景には、その時代を乗り越えるだけの難産が必要で、これからの本物には何が必要で何が求められるのか。私達は考え続けなければいけません。



桜塚の家 二井清治

住空間の目指すところ

住まいは草庵の心地良さも大切だが、伊勢神宮正殿のシンプルな佇まいに、凜とした美しさと空間の奥深さを感じるように、生活する人が常に新鮮な感動を持続できることが大切である。
光と翳

光の方向性を明確にすることで、空間に深い翳を生む。光の躍動感と闇の静けさを持ち、豊かな精神性に満ちた空間となることを目指した。

住まいを街に開く

1階は街に開かれたフォーマルな空間（ライフワークギャラリー）とし、プライベートなファミリールームを上階に定めた。ライフワークギャラリーは家族の生活の場であり、街に開放するイベントの場でもある。ここを媒体として、住まいがゆるやかに街とつながる。

内外空間の連続性

水平方向と垂直方向に広がる2つの空間が、屋外空間を織り込むように1階から上階へとつながる。2階デッキは上部にガラスの屋根を掛けた半屋外空間とし、3階居間は天井全面をトップライトとした。ルーバーで光をコントロールし、室内でありながら限りなく外に近い空間である。室内、屋外、半屋外の空間が重なるようにつながり、人が移動することにより次々と展開する構成としている。

撮影：松村芳治

■プロフィール

1946年 滋賀県生まれ
1974年 坂倉建築研究所に入所
西沢文隆に建築を師事
1987年 二井清治建築研究所設立
1991年～1994年 神戸芸術工科大学
環境デザイン学科非常勤講師

■建物データ

設 計：二井清治建築研究所
二井清治、稲垣年彦、
細田剛宏、北聖志
施 工：分離発注方式
所 在 地：大阪府豊中市
竣 工：2003年

